

支那の古史は二様の要す

き反對の兩元素あるを論し、而して一元素としては歴史上の出來事を記録するに當りて嚴に信實を旨とすること、統計的事實に關する正しき智識を探究するに熱心なること、を擧げ、又一元素としては、支那全國到る處、内外國人と交際するに虚言、虚飾を恣にするを擧げて之を對照し、その全く反對なるを論せり。

さて支那の古史は、甚だ相異なりたる二相を呈することを注意せざるべからず。二相とは何ぞや、第一適當なる順序、比例を以て出來事を敘述すること、第二品行、動機を解析して是れ等の出來事を説き明かすこと、是れなり。博く支那史に涉獵したる西人の説に據るに、第一の点に就ては、遙かに當世に卓絶したること疑ひなし。然れども、第二の点に至りては、決してシンゲルの説の如く、細心周到ならずといへり。吾人は、もと支那歴史に精しからざるを以て、深く此の議論を推究することを止め、只一言の注意を與ふべし、曰く、支那人は虚言を恣にするとの世評ある人民にてありつゝ、之と同時に又同國に眞實を旨とすべき史家の續々輩出したる時代ありしは、眞に一奇事といはざるべからずと。

春秋を論す

孔子の教は、信實に於て欠けたるのみならず、猶夫子自身の實例が其の史と家てし事實をありのまゝに傳へざりしを証と與ふることを記し、臆せざるべからず。レツグ博士は、孔聖の生涯中の瑣事に對して、痛く攻撃を試むる人にあらざれど、孔子が其の著はす所の『春秋』即ち上は隱公より下は哀公に至るまで二百四十二年間、即ち孔子が逝去の二年前に至るまでの魯國の記録を有する書を編纂するに當りて、史料の取扱ひ方如何は深く考察すべき所と爲せり。左に掲ぐる所は、レツグが其の著『支那宗教論』(The Religions of China)の中に載せたる孔教講義の一節なり。

孟子は春秋を以て夫子の最大事業と爲し、羽化生曰く、孟子滕文公篇に、春秋は天子の事なりとあり。且つ曰く、孔子、春秋を成して、乱臣賊子懼る。孟子滕文公篇、但し著者孔子自身も亦かゝる意見を懷けるが如く、我れを知るものは其れ惟だ春秋か、我れを罪するものは其れ惟だ春秋かといへり。また滕文公篇に、事實上より言ふに、春秋は驚くべきまでに材料に乏しく、加之のみならず、通辭的、欺詐的なり。春秋註釋者の一人たる公羊公羊は曰く、春秋は國惡を忌むと。

手グッは我か『支那古典』(Chinese Classics)の第五卷に此の事を論し、春秋編纂の精

神たるや、載すべき事を故さらに省き、後世を欺き、虚構の紀事を傳ふるなりといへり。……予は屢、今日現存する春秋の偽作なるを証し、孔子の筆に成りたる真正の春秋にあらざるを証せんと企てたり。然れども支那人は、今の春秋を以て孔子晩年の筆に成りたるものとし、飽く迄眞作なるを主張して止まざるなり。加之のみならず、外國の學者若し之を孔子の筆にあらざると爲し、此の貴重なる哲學者の品性上に加はりたる不實歴史編纂の汚点を除きて、然後彼れを窺はんとするども、支那の官吏學者は、毫も之に同情を懷かず、其の心を知らずして、却て嗾々其の非を辨するならん。抑も信實は、孔子が屢弟子に教ふる所なり。然り而して春秋は自他の國人に國惡を忌むが爲めに爲るべきを教ふ。豈自家撞着といはざるべけんや。

〔註論語述而篇に云く。陳司敗問ふ。昭公禮を知れりや。孔子曰く。禮を知れり。孔子退く。巫馬期を揖して之を進めて曰く。吾れ聞く、君子は黨せずと。君子も亦黨するか。君魯吳に娶る。同姓なるが爲めに之を吳孟子といふ。君にして禮を知らば、孰れか禮を知らざらん。巫馬期以て告ぐ。子曰く。丘や幸なり、苟くも過あれば人

支那人は
虚言たる
を自白す

必らず之を知ると。禮記にも國の惡を忌むは禮なりとあり。春秋が國惡を忌むの一事は此の精神に出でたるものなり。但し亂臣賊子懼るゝの事は、歐陽永叔及び蘇老泉の春秋論稍之を辨せり。

上來叙述する所に據れば、支那歴史の信憑すべきを主張する人といへども、信すべきは、獨り歴史に止まれり。と爲すこと明かなり。勿論支那人を執らへて悉く虚言者なりと證するは出來得べきとにあらす。吾人また及ぶべくんば、斯く證せざらんと希望する者なり。左れを概して支那人が虚言者たるとは、苟くも彼れ等が其の良心の喚起せらるゝ時に、自白自證する所なり。此の類の人の言ふ所を聞けば、恰かも南海の或る島王が、吾人口を開けば、忽ち虚言生まると自白したるに同じ。吾人の思考する所に據るに、支那人は、或る人の論せし如く、只虚言の面白さに之れを述ぶるにあらす。虚言を吐かざれば、利益を獲ること能はざるに之を吐くが如し。ハリー・ル氏は言へらく、支那人は眞實を述ぶること能はず、又眞實を信すること能はずと。著者の一知人曾て支那一少年の爲めに訪問せられたることあり。此の少年は英語

に通する人なり。著者の知人に請ひて「足下は虚言を吐く」(You lie)と云へる一語を
 教へ給へといふ。知人之を教へ、且つ曰く。誰で外人に向て此の言を吐くこと勿れ。外
 人に向て之を吐かば「足下は虚言を吐く」といはし其の怒る所と爲りて毆打せられ
 んど。少年此一言を聞きて、深く驚き、且つ怪めり。何となれば彼れの意中に於ては、人
 に向て「足下は虚言を吐く」といふは、恰かも「足下は予を騙す」(You are humbugging me)
 といふと同じく共に無害の言なればなり。一千八百五十七年我々安政に於ける倫
 敦マイムスの支那通信員ソック氏本誌載すは、西洋人が虚言者と呼ばるゝを惡む
 旨を述べ、さて曰く。然れども支那人に向て、足下は虚言者なりといふども、彼れは別
 に輕視せられたりと爲さず、無禮を加へられたりと爲さず。且つ予は虚言者にあら
 ずとの辨解をも爲さずして只言ふならん。予は敢て閣下に向て虚言を吐かずと。支
 那人に向て、足下は常に虚言を吐く人なり。今現に虚言を吐かんと企てつゝあると
 いふは、猶英人に向て、足下は虚言に巧みなり。予は足下が今巧妙なる虚言を考へつ
 ゝあるといふが如しと。

支那人が
 支那人が通常の談話は、たとひ虚言と迄にいふべからざるも、確かに不信と

稱すべきものゝみを以て充たさるゝか故に、凡そ如何なる場合に論なく、眞實を知
 ること頗る難し。事實を知るは、此の世に於て最難事なり。の語は、支那の眞情を穿ち
 たる語なり。支那に於ては、何事にまれ、落ちなく眞實を話されたりと確信すること
 能はず。例へば訴訟の起るに當りて、他人の助を求め、百事を其人に委任する時とい
 へども、猶充分に眞實を打ち明けず。委任を受けたる人、その後に至りて、種々の緊要
 なる事項の秘せられたるを發見すること多し。畢竟悉く打ち明けなば、曲者、敗訴者
 と爲らんことを恐れてなり。凡て支那人と親交する人は、何事にも、殘らず聞き取
 りたれば、殘らず理會したりといふの感を起すことなし。寧ろ我が聞きたる條項と、
 他人の聞きたる條項とを合して然る後、我が最も信任する支那人に諮り、種々に討
 議を盡して後始めて眞相と仮定するものを穿つなり。
 支那人が往々「實際上に於ては無言に均しき言語」西人その何の眞意に時を移すは、信
 實の欠乏と猜疑の心と相聯合するによりてあり。外人が支那人を解し能はざるも
 亦その不信實なるによりてあり。吾人は、支那人が胸襟を披きたりと思ふこと能は
 ず。猶齟齬ソウゴに何か介まれりと思はざるを得ず。支那人若し吾人を訪ひ來りて、吾人と

眞の理由
を述べず

利害の關係ある他の支那人に關し、かやう々々と耳語くことありども、吾人はその言ふ所果して眞なるか、將た其の言ふ所に頓着なく乙者の關係を依然たらしむべきかを容易に決すること能はず。又吾人は、支那人最後の意見は、果して最後の意見なるか、將た將來の花を開くべき否なるかを明かにすること能はず。彼れが輕々に話すことも、或は商人又は旅客若くは外交家の身に取りて掛慮すべき種子を含めるかを知了すること能はざるなり。

支那人は何事に就きても、眞の理由を述べず。故に偶述ぶることあるも、吾人は之を信すること能はず。支那人は、教育あるものも、教育なきものも推しなへて、宛ながら烏賊の墨汁を吐きて踪跡を晦まし、安全に退くに似たり。例へば西人若し旅するに當りて、或る人之に面し、予は新田を開發せんと欲するも資本足らず、願くは閣下一臂の力を貸されんことをと請ひたりと仮定せよ。然るときに此の西人をして答へしめたらんには、恐らくは言はん、足下の事は足下みづから之を爲せ。足下の資本如何は予の知る所にわらずと。然るに此の西人の從者たる支那人をして答へしむる

ときは、大にその趣きを異にし、小兒然たる微笑を含みつゝ、温言以て之を拒絶して言ふならん、主公は固より同胞の美譽を助くるを好めども、囊中冷かにして自己の用途に供するに足らざるを以て、心にもなく、之と謝絶せざるを得ず。遺憾何ぞ之に過ぎん。又賤民あり、狼りに門を入らんとする時、守門若し西人ならば、眞摯に入らべからずと拒絶すべし。然れども守門若し支那人ならば、門内に大狗あり、入るものを噛むべし。足下請ふ去りて危険を免かれよと。

約束を守
らす

支那人には、約束を堅く守るだけに、良心の充分發達したるもの甚だ少なし。此の氣質は、誤解の才第七章及ひ時間を頓着せざること第五章の二つと聯絡を有す。支那人が若し失錯を爲したる時、其の失錯の眞因は何なるにもせよ、其の辨解の法數種あり。或る場合に於ては、彼の違約を詰らるゝに當りて、誓約に違ふとも、之を守りたるど同一の成績を得れば宜しきにあらずやと答ふる所の人に似たることあり。又或る場合に於て若し失錯を非難せらるれば、之を謝し、之を改めんと約するの速かなることば、猶源泉の混々たるが如し。即ち彼れは充分に失錯を認むるなり。只此の

上に望む所は、その改めんと約したることの果して真なるに在るなり。
支那の一教師會て同國の箴言を解釋註解せしことあり。一日古人の一金言を書し、
何事たりとも他人より要求せらるゝならば斷乎として之を拒絶すべからず、たと
ひ心には真に之を承諾せんと欲せざるも、口には承諾の體裁を装ふべしとの意を
以て之を解き且つ曰く、明日まで之を延せ、明日來らば、また明後日まで之を延せ、か
くの如くして要求者の心を慰めよと。吾人の知れる限りにては、此の主義は、支那人
が概ね借金の言譯に用ゆる所の主義なり、即ち負債者は、來る何日に必らず返済す
べしと約するも、債主は固より心に之を期せざるを以て、其の期に及びて、約束を違
へらるゝども、毫も失望せず、負債者は更に他日を期し、また他日を期し、また他日を
期して、次第に期を延ばすなり。

支那人の支那人たる所以の不信實の最も著しきもの、一つは、小兒に對する行爲
に在り、即ち教ふるものも、信實として之を教へざれば、教へらるゝものも亦信實と
して之を聴かざるに在り、小兒未だ談話の力を得ず、只漠然其の聴く所の言語を理

會するの幼時より、養育の任に在るもの之に向て諭すらく、言ふ事を聴かぬと、我が
袖の中に隠れて居る妖怪が出てつかまへるぞと、而して外人が其の所謂妖怪の代
表者にせらるゝは、毎度有りうちのことなり、噫、此の一事のみにて、悪る口の屢、吾
人の耳朶に達する所以を説明するを得べし、彼れ等は、吾人西洋人を「たま」に使ひて、
漠然おどされたれば、其の漸く成長して、吾人西洋人は恐るべきものにあらず、寧ろ
笑ふべきものなりとの感情を起すや否や、忽ち市街に於て吾人を罵り、悪まれ口を
さくも無理ならぬこといふべし。
外人を乗せたる馭者若し市街に於て惡童の叫聲、外人を罵るに惱まざるゝときは、故
等數名を捕へ、車の後ろに縛りて連れ行くべしと叫びて之を脅迫す、舟子も亦かゝ
る場合に於ては、頭から熱湯をかけるぞといふ、左れを、支那の惡童は脅迫の文句に
聞き慣れたれば、「打つぞ」「殺すぞ」等の語を聞くと、只止めよの意に聴き取りて平然
たるなり。

吾人は決して支那に於て正直の行爲を見ること能はずとは言はず、然れども有り

體に言へば、吾人の注意觀察の行き届く限りに於て、かゝる行爲を見ること能はず。尤も眞實を重んぜざる國人なれば、それも其の咎の事ぞかし。例へば美服を着せる學生あり。路に外人に逢ふ。外人之に問ひ掛くれば、手は讀み能はずと稱して少しも耻づる色なし。是れ見給へどて一小冊子を渡せば、價をも拂はずに雲を霞と逃れ去れり。彼れは、かゝる行爲を耻とせず、外人の『うすのろく』して『見ず知らず』の人を妄信したるに乗じ、之を誑したるを手柄として獨りみづから喜ぶなり。支那にては、外人より物品を買ふものは、持ち合はせのなきを口實として、定價以内の價を拂ふを普通とす。外人若し其の瞬時に其の人の耳を指し、貴下には其處に金を所持せらるゝにあらすや」といへば、不勝無勝にそれを渡して、騙り取られたるが如き感と起すなり。又之と同一事にて、今全く持ち合はせなしといふと口實として、『只奴』に物を得んが爲めに談判に『舊半日』を費し、談判數十回の末、愈々成功せざるを察すれば、茲に始めて『ふくれつら』を爲しつゝ、懷中より金を出して之を拂ふ。是の時に際し、賣主若し彼れを信して『愚け賣』を爲すならば、彼れは蛇を殺したる如き感と爲して、日本風に言へば、如くに雀躍欣喜しつゝ、其の店を出て行くなり。

支那にては、親戚より物品を借り受け、往々無断にて借受くるなり。直に之を『質入れ』する者多し。親戚若し其の品を要すれば、金を拂ひて之を受け出さざるを得ず。或る傳道學校の生徒中に支那の一童子あり。舎監の職を掌れる貴婦人の金を盗めり。貴婦人之を悟り、『のつびきならぬ』証據を出して彼れを詰りければ、彼れは且つ嘆し、且つ泣きて曰く、僕家に在りし時、母の金を盗むの悪習ありき。今先生には、僕を慈み給ふこと篤きが故に、僕思はずも母の如き感と爲して、不圖悪習を再發せり。仰ぎ願はくは哀を垂れ給はんことをと。

支那の社會に顯著なる弊害は、概ね西洋の社會に於ても亦顯著なる弊害たること論を待たず。然れども二者の間に緊要なる反對の点あることを明かに悟らざるべからず。而して其の一つは、既に叙述したる如く、不信に在るなり。

支那に於ける賄賂(吹血磨牙)に據れば、金を取り扱ふ人が甚だしく収斂するなり。其の理論及び實際を詳かにし、一編の書を著はさば、定めし面白き事ならん。賄賂は、同

國に於て、上天子より下乞兒に至るまで、普ねく一般に通ずる習慣なり。支那人は元來實際に長けたる敏き人民なれば、巧に此の制を養ひて之を完成し、人をして大氣の壓搾を逃るゝ能はざると同じく、此の壓搾を逃るゝ能はざるに至らしめたり。故に帝國の組織を改めたらんには、イザ知らず、苟くも然らざる限りは、之を除くこと極めて難し。

此の事情と、此の事情を生せしめたる支那人氣質との結果たるや、遂に外人をして『すれからしたる』支那人、即ち盛んに彼の弊風を行ひつゝ、機會もあらば『賢人』の名譽を博せんと企つる所の支那人を取り扱ひ難からしめたり。支那の俚諺に云く、馭者、舟子、旅舎の主人、傭工、牙人は、その罪の如何に論なく、凡て死刑に處せらるべき價値ありと。此の類の人々と外人との關係は一種特別といふべし。其の故如何と尋ぬるに、外人は概ね社會的颶風第二章の趣味を解せず、其の才を備へざるに依り、其の起らんよりは寧ろ強奪強奪を承諾すればあり。左れど支那人と支那人との間に權衡を失ひたりと思ふとき、その權衡を復するは社會的颶風に由るなり。此の事には第二章に詳し

吾人の知る限りにては、支那政府も亦上文叙述したる通癖を脱すること能はず。否之を有することの最も著しきものなり。其の實例は、支那外交史の首尾を貫きて明かに、支那官吏が人民に對する關係に就て知るべし。今一二の簡單なる例を擧げん。政府は發令毎に德義を旨とし、其の縷々説く所極めて宜し。然れども花ありて實なく、言ふ所理に稱ふも之を行はざるを如何せん。而して政府も固より實行を期せず、人民亦之れを期せざるを以て、實際に於ては、虚偽その間に存するなり。支那政治家の傳記と公文書とを閱すれば、恰かもルソー (Rousseau) の『懺悔録』(Confessions) の傳記、井に『懺悔録』の事は、羽化を見るが如く、最も美しき感情と、最も醜き行爲とに充生著。佛國革命戰史の中に載す。をみるが如く、最も美しき感情と、最も醜き行爲とに充てり。彼れは一萬人の首を斬りつゝ、口には孟子人を殺すを嗜まざるもの能く之を一にせんの章、梁惠王、孟子、梁、襄、を唱へ、懷には洪水汎濫、後の堤防修築費を『ちやくぶく』しつゝ、農夫に向ては土地の荒廢したるを嘆き、心竊かに『一寸のがれ』を期する所の條約を結びつゝ、口には偽証の罪たるを論す、噫、何ぞ言行相反するの甚だしきや。願ふに支那官吏の中にも清廉潔白の人は、必らずあるならん。然れども之を看出す

こと甚だ難し。况んやその周囲の境遇は彼れをして心に善しとする所を行ふこと能はざらしむるをや。今若し支那古典を熟讀すべき最好機會を有したる人の實状と古典の教ふる所とを對照するならば、古聖人が社會をかゝる高度の標準に昇すの手段に敏ならざるを知らん。

〔足下は是れ迄幾何の信任すべき支那人に接せしや。此問題は、勿論支那正則的教育の外、他に感化力を受けざる人々のみに就て發するものと知るべし。此の問題に答ふる所、人々同じからず。是れその經驗を異にし、支那人の性行を判する標準を異にするに由りてなり。左れを十中八九の外人は答ふるならん。甚少數若くは六人又は八人、或は十二人。勿論時として甚だ多くして記憶すること能はずと答ふるものなきにあらざるべし。然れども吾人は信す。有眼の觀察者は、必らず少數と答ふるべきを。〕

吾人、支那に在留する外人は、支那人が如何なる事をみづから許すかを觀察し、之に由りて進退するを最も安全とす。既に前章、支那社會的生活のモラフ一因數としての互相

信任すべき支那人幾何ぞ

蛇は己れの穴を知

の猜疑を論するに當りて述べし如く、支那人は他人を信せざるを以てみづから許す。コハ固より理由のあることにして、彼れ等その理由を知ればなり。同國の將來をして不確實に充たしめたるは、正さに此の事情なり。概して言へば、支那の官吏社會は、同國諸社會中の最も良きものにあらざる。否、最も悪きものといふべし。聰明なる一道臺會て外人に語りしことあり。我が國の官吏は凡て悪人にして、罪死に當るべき者なり。左れを之を殺すも無益なり。何となれば後任者また吾人と恰かも同等の悪人なるべければなりと。支那の古諺に云く、蛇は己れの穴を知ると。支那の官吏社會が其次に位する社會即ち商業社會に最も不信の念を懷くことば著明なる事實なり。彼れ等は以爲らく、所謂「改革」の商業社會なるものは、只表面に止まり、忽ち剝離すべきものなりと。彼の泥工が豫め修繕の仕事を作らんが爲めに、故さらに不良の煉石灰を用ゐて悪しく拵らへ上げたる煙突、又は屋根の修復に多量の時間を費すが如きは、取りて以て支那百般の事物の標本とすべきなり。

夫れ支那帝國には、用ゐて以て國資を擴張すべき富あり。然れども信用なきを以て、

富は、穴中に蟄伏して現はれず。又支那帝國には、百般の須要に應すべき智識あり、各種の才能亦乏しからず。然れども人民が信實ならざるの極、互に相疑ふを以て、智識才能ありといへども、帝國の改善を遂ぐるに足らざるなり。

(註) 今や「支那人氣質」既に二十五章を畢はり、餘す所は、總かに宗教論と現時國情論との二章に過ぎず。故に茲に碩學ヘーゲルの支那に關する意見を抄録して參考に供せん。蓋し亦西人が同國に對する觀念如何を知るの一端ともなるべければなり。

書契以前の事は、遼遠なるを以て姑らく之を置き、書契以後に就きて舊き國々を擧げんには、第一に指を支那帝國に屈せざるべからず。

支那は、夙に今日の如き狀況に進みたれども、爾來數千年の間開化中止の姿と爲りて殆んど一步をも進むことなし。何故に然るやといふに、同國に於ては、單に物界的存體モノ界的存體の成り立つあるのみにして、此の存體の中に、心界的進動心界的進動の自由の在るなきに依り、各種の變化を生ずること能はず。常に固着不動の性質に止まり

て、眞に歴史的と名くべき性質に達せざればなり。

(羽化生曰く、ヘーゲルの説に、歴史は心靈の發達にして、心靈の本質は自由なり。故に若し心靈毫も發達せず、人民の間に自由なければ、歴史的と稱するを得ざるなり。)

蓋し支那と印度とは、恰かも世界歴史の範圍外に在るものといふべし。その故は、頼みて以て活動的進歩活動的進歩を遂ぐべき元素は、結合せんとして猶未だ結合せざればなり。心界の自由は、物界的存體の中に没了せられたるに由り、此の兩元素の區別反對全く之が爲めに妨げられて、存體は自家を反省すること能はず。即ち主觀に達すること能はず。故に其の德義的狀貌德義的狀貌は、存體的存體的(不變的)にして、臣民の德義的氣質として支配せずして、主權者の擅制主義として支配するなり。

支那國の如く、史家の眞に古來連綿として輩出したる國は、あらず。他の東洋諸國に於ては、上古の事蹟は、口碑に存すれども、記録の存するものなし。例へば印度の諸經は、之を史といふべからず。亞刺伯の口碑は、甚た舊けれども、政体及び政体の發達に關係を有せざる類の如し。さるに支那にては、上古より政体歴然として存

立し、史また詳密に是れ等の事を記せるなり。さて支那の口碑は遠く紀元前三千年に遡れり。

(羽化生曰く、普通の計算に據るに、我が神武天皇の紀元元年は、西曆紀元前六百年に當り、支那周惠王の十七年に當ると云へり。然らば西曆紀元前三千年といへば、我が神武の紀元より二千三百四十年前と知るべし。尤も司馬貞の補史記に引く所の春秋緯に據れば、開國より獲麟まで凡そ三百二十七萬六千載とわれども、信し難し。)

されば同國に於て經書として尊ぶ所の書經論は、これより遙かに後年なる堯舜の治世に始まれども、その治世にてすら、その元年は紀元前二千三百五十七年に當るといへり。尤も他の東洋諸國も亦支那よりは新しきにもかゝらず、猶紀元前二千年以前に既に存立せしものあり。英國の史家の計算に據るに、埃及は紀元前二千二百七十年に遡り、亞西里亞は同二千二百二十一年に遡り、印度は同二千二百四年に遡るといふ。されば東洋に於ける重なる國々は紀元前、凡そ二千三百年の遠きに遡るなり。

又普通の計算に據るに、舊約全書に載する所の彼の諸國の大洪水より紀元元年に至るまでは、其の間凡そ二千四百年を距るといふ。然るときは、東洋の舊國は大洪水以前より成立したるものどなきにあらざるべからず。甚だ疑ふべきにあらざるや。

(羽化生曰く、創世記に、諾亞の時の大洪水のさまを記して、斯く地の表面にある万有を、人より家畜、昆虫、天空の鳥に至るまで、盡く拭ひ去り給へり。これらは地より拭ひ去られたり、只諾亞及び彼れと共に方舟に在りしもののみ存れり。とあり。故にこの説によるときは、大洪水以前の人類は、諾亞一族の外、悉くこの洪水の爲めに滅亡したる筈あり。西洋人は、多くかく信せり。故に本文東洋の諸國は大洪水以前より成り立てるを疑はしといふなり。)

ジョアンナ・フナ、ミュレル (Joanna Von Muller) は、此の普通の計算に對して有力なる攻撃を爲せり。氏はいへらく、大洪水は、紀元前三千四百七十三年に當ると。即ち普通の計算よりも凡そ一千餘年舊くなれり。氏は希臘語翻譯の舊約全書によりて、かくいへるものにして、此の説出て、始めて矛盾を避け、疑ひを晴らすを得たり。

支那には或る舊き聖經詩書あり。その國の歴史政体宗教などみな之に徴するを得。これらの聖經は宛ながら印度の諸經摩西の記録全書約及ヒホーマー(Homer)の詩篇「イリアッド」及「オヂセ」（ホーマーの著述の事は、羽化生書の中に委し。に同じ。文學史及ヒ歴山大王一統史の中に委し。）支那人は是れ等の書を経書と名けて諸學の基と爲す。中に就て書經には同國の史を載せ、（史記及ヒ三代などに関するをいふ。）先王の政治を説き、（史記及ヒ三代などに関するをいふ。）典義を以て其々王の製造せし法律を叙す。（史記及ヒ三代などに関するをいふ。）易經周は圖四卦より成り、此の圖は文字の嚆矢なりと思考せらる。

（羽化生曰く、通常の文字は蒼頡の作る所なれども、それより前に伏羲始めて八卦を畫し、（六十四卦は悉く伏羲の製作なり。伏羲は八卦のみに陰陽消長の理を示し、後世に遺したるを以て、之を文字の嚆矢といふなり。）支那人は、また同書を以て默思の基礎と爲す。何故ぞといふに、同書は一元（陰陽の即ち一元氣、二元陽といへる抽象より始めて、然る後具體的存在に論及すればなり。）

（羽化生曰く、彖象などは、みな具體的存在に論及するものあり。）

又詩經は詩集中の最も舊きものにして、諸体の詩を備へり。

（羽化生曰く、茲に諸体といふは、賦、比、興、及ヒ風、雅、頌を指すなり。之を六義といふ。又賦、比、興を三体ともいふなり。）

往昔支那國の高官（采詩の官勅命を奉し、毎年我が管内の人民が詠せしアラユル詩を集めて之を年會毎一年一回開の席に携ふれば、帝みづから判官となりて、その中より秀逸の作を選び給ふ。此の選に中れる者は、爾來公衆の爲めに榮譽とせられたりといふ。）

（羽化生曰く、禮記に「天子は五年一たび巡狩し、太師に命じて詩を陳せしめ、以て民風を觀る」とあり。當時采詩の官といふもの、四方の詩を采りて太師音樂を掌る最高官に呈すれば、太師は之を音律に上せて天子に奉り、天子は見をなはして、四方の風俗治乱得失を察せられ、施政の心得としたまひしなり。茲に言ふ所と少しく異なり。左れを姑らく原文のまゝに譯す。）

以上三書は、特に貴重せられ、研究せられけれども、上古には、この三書より、猶此の他に稍劣等に位する二書あり。一を禮記といふ。帝室及ヒ有司に關する儀式慣例を

録し併せて音樂の事を叙す。二を春秋といふ。孔子の郷里なる魯國の史記たり。以上五經は則ち支那國の歴史、風俗、法律の基礎たるなり。

此の國は、歐羅巴人の意を注ぐ所たり。たとひ此の國に就ては、只漠然たる説話を聞き知れるのみありしかども、而して毫も外國と聯絡なき獨興の國らし、とて常に驚異せられたりき。

十三世紀に於て、マルコ・ポロ (Marco Polo) 第三六二頁始めて此の國を探検したり。然れども當時世人歐洲は、彼れが報する所を荒誕あらんといひて信を置くもの殆んどなかりき。後年漸く之を信し、彼れの報導に基きて、彼の國の境域、面積、その他

百般の事を稍明かにするを得たり。さて其人口は最低計算に據るに、一億五千万といひ、又或は二億ありといひ、最高計算に據るに三億ありといふ。最近計算によれば、四億零四百万以上に及べり。

支那國は遙かに北方より起りて、南は印度に至る。北緯五十度十六分より東は太平洋に臨み、西は波斯及び裏海に接す。南は支那海に沿ふて、東南は日本海、南海に瀕し、西は印度及び土耳其斯坦と境を交ふるなり。茲に波斯に接す。支那本部は人口過多にして、生息すべき

餘地なきが故に、黄河及び揚子江にては數百萬の人民、水上に船居し、日常必須の物品を備ふ。

(初化生曰く、拙著「萬國地理」に云く、廣州府又廣東といふ。廣東省に在り。珠江の北岸に傍へる貿易場なり。人口一百万餘、其の四分の一は舟を以て家とし、水上に住す。船の數概ね四万に下らず、その大なるものは之を區劃して家族婢僕の室に充て、又舟中に在る庭園には花卉を植ゑ、雞犬を養ひ、市街は、小舟を結ひて道路と爲し、傍らに百貨を鬻ぐ店あり。左れば此の地の人民には水上に生長し、終身陸地を踏まずして死するもの數万人の多きありといふと。)

此の國の人口の衆多なるは、日常巨細の事に至るまで、政府の干渉せるとは、歐洲人の驚く所なり。而して殊に最も驚くべきは、史類の精密なるに在り。此の國にては、史官を以て最高等官と爲す。此の最高等官即ち兩大臣——兩太史——は常に玉座の傍に在りて、陛下が命し給ひ、言ひ給ひ、行ひ給ふ所の百事を日記にし、この日記を改作して史料に供するあり。吾人はその編年史の巨細を窺ふこと能はざれども、支那の史はみづから進歩せざるのみか、併せて吾人の進歩をも妨ぐべ

し。
支那の史は遠く上古に遡る。當時伏羲は始めて普ねく教化を施きたるを以て教化普及者の稱あり。

(羽化生曰く。司馬貞の補史記及びその他の諸書に、伏羲の功德を擧げ、且つ網罟を結び、以て佃魚を教ふ故に宓犧氏と曰ふ。犠牲を養ひ、以て庖厨にす。故に庖犧といふ)とあれども、教化普及者と稱すといふことはあらず。左れど例の如く原文のまゝに翻譯し置く。

彼れは紀元前二千九百年に生活したりといふ。故に書經以前に在り。書經以前左れど支那の史家は書契以前即ち神代の事も全く歴史的なりとして之を叙せり。

(羽化生曰く、是れは著者一己の見なり。司馬遷の史記に、五帝以前の事を載せざるなど、みな上代の事を歴史的となさざるの証なり。)

支那歴史に於ける最も舊き地方は、支那本部即ち固有名 — 即ち黄河が源を諸山の間黄河は源を崑崙山に發すに發する邊より、下の星宿河に發す西北隅に當れる處とす。同國かそれより南

に楊子江の方に範圍を擴げたるは晩年の事あり。史中叙記する所は、人民か尙未開の域を脱せざりし時、例へば森林に生活せし時より始まる。これらの未開人は、菓實を拾ひ、獸皮を着、定まれる法律なかりき。伏羲始めて小舎を造り、住宅を定め、四季の變化循環に意を注ぎ、交易を教へ、交易を教へたるは神農なるが如し 嫁娶を制し、又道理といへるもの、天より降り來りたることを教へ、養蠶を教へ、橋梁を架し、馬牛を養ひたりといふ。爾來星霜を経るに従ひて、教化漸く南方に及ばし、國を建て、政府を設けり。

(羽化生曰く、伏羲は國の北部に居りて陳に都し、神農に至りて都を曲阜に遷せり。)

この一大帝國は斯の如く漸次に建設せられたれども、その後速かに四分五裂して互に干戈を接えたるの末、復た合して一となれり。左れどその後も屢革命ありて革命毎に國號を改めたり。而して當今の朝は第二十二朝原文のに當るといふ。又革命毎に京城を易ふるの慣習ありて、今の北京が京城たらざりし以前には、南京を京城とし、猶それよりも以前には、他の地を京城としたり。

支那は屢、韃靼の來寇を蒙じりしかば、秦始皇に至りて、此の北敵を禦がんが爲めに万里の長城を築けり。万里の長城は今も猶依然として現存せり。始皇亦全國を三十六郡に分ちたり。又舊來の文字、殊に史籍及び史學に攻駁を加へたるを以て、その名今に著し。

〔羽化生曰く、秦記を除くの外、アラユル史類を燒き、又博士官の掌る所の外、アラユル詩書百家の語を燒き、只醫藥卜筮種樹の書のみを存せり。〕

何故に帝が斯くなせしやといふに、これは先朝の記臆を人民の腦裏より奪ひ、而して我が朝の鞏固萬歳ならんことを欲してなり。

〔羽化生曰く、今を師とせずして古を學ひ、以て當世を非り、人民を惑亂すといふを恐れてなり。〕

さて史籍の燒からるゝに當りて、數百名の學者は、殘れるものを保存せんとて、携へて山に逃れけるが、そが中に不幸にして帝の爲めに捕へられたるものは、悉く書籍と同じ運命に出遇ひたりき。坑に埋められて死したるなり。左れど始皇が斯く書を燒き、儒を坑にしたりしにも拘はらず、嚴に經書の名を下すべきものは、概ね今日に傳はれるなり。

るなり。

〔羽化生曰く、周易は卜筮の書として固より焚かれず。その他の經書は、みち焚かれたるなれど、孟子に就ては、當時學者が壁間などに秘め置きたるものは、後に發見せられて今日に傳はれり。但し樂經といふものは、此の際に全く失はれて傳はらず。又書經の中にも、失はれたるもの二十五篇は、とあり。今の書經中に挿入せる大禹謨及び五子之歌等の類二十五篇は、みな僞作なりといふ。〕

支那が始めて西洋と好を通したるは、紀元六十四年の頃のこと、す。世に傳ふる所に據れば、その頃支那帝は西洋の賢士を訪問せしめんが爲めに、數多の公使を派遣したりしとぞ。眞僞未だ詳ならず。紀元六十四年は、後漢明帝の永平七年、即ち即位第八年に當るなり。其の後二十年を経て、支那の一將軍は、猶太を遠征したりといふ。茲に其の後二十年といふは、紀元八十四年の頃なるべし。即ち後漢章帝の元和元年、即ち即位第十年に當るなり。八世紀の初に歐羅巴人始めて支那に行きたりと傳ふ。稍、晩年に行きし人々、先人の遺跡、紀念物を發見したりといへり。

紀元一千百年の頃、支那國は、西韃靼の援を假りて、國の北邊に境を接する韃靼中の遼東を攻略したり。左れど韃靼人をして此の好機會に乗じて、支那國內に立脚

の地を得せしめたりき。管に然るのみならず、滿州人にも亦同じく立脚の地を得せしめしかば、滿州人は十六十七兩世紀に於て支那と兵を交えたるの末、遂に之に勝ち、現朝(清朝)をして中原の鹿を獲せしめぬ。

今や支那歴史の九牛が一毛を述べたれば、更に進みて其の國体の精神——終始同一に止まりたる憲法の精神——を考察せん。而して之を考察するに、通理より演繹せん。但し此の通理は、即ち**物体的心靈**と**個人的心靈**との間に直聯合をなすものにして、家族の心靈に同じ。此の家族の心靈は支那國に於ける人口最も稠密なる部分に蔓延せるものなり。さて支那の如き文化の進度にては、**主觀**の元素——詳に言へば**物体的意志**——と相對して**個人的意志**を省察すること、此の力を自己の大切なる存在を有するものと認むること、——自己の自由なる意志を知ることを得るは、只この一事に存す。——は未だ發見せられざるなり。支那に於ては、**普遍的意志**は**個人的**に向てその爲すべき事項を命し、而して**個人的意志**は唯々諸々として、只命に是れ従ひ、更らに己れの心に省察することをなさず。一身の獨立を棄て、願みざるなり。彼れ若しこの命に従はざるるときは、彼れ若し彼れの存在

の物質より己れを分離するとき、この分離を己れの体中に退きて沈思せざるか故に、その蒙る罰は己れの主觀的、内界的存在に關せずして、單に己れの外界的存在に關す。是を以て**主觀**の元素は、政治上に於ても、將た徳義上に於ても、全く欠乏せり。何となれば、**本質**は單に**一個人**——即ち**帝**——にして、**帝の命令**は、あらゆる意向の源なればなり。左れば支那に於ては、只一箇の生物のみ全權を有するなり。辭を換へて言へば、今猶強硬不撓にして、自己の外何物にも似ざる所の**本質**、その他の元素を拒絶する所の**本質**のみ全權を有するなり。

以上の關係の更に一層明かにあらはれたるを、**家族の關係**と爲す。支那の國家は、**家族の關係**に基き、**族長主義**、人々みな己れは**家族**中の一人なりと考へ、**國家の子**なりと考ふ。帝は宛ながら父にして、**万民**を子養ひ、**万民**の爲めに百般の事を命せり。万民はこの父に抗すること能はず。左れば、**曾經**に於ては、**永世不變**の**大本**として五つの義務を述べたり。

(一) 帝と人民と互相の義務

(二) 父子互相の義務

(三) 兄弟互相の義務

(四) 夫婦互相の義務

(五) 朋友互相の義務

是れなり

是れに由りて之を觀れば、帝か臣民互相の事に干渉すること明らかなり。

次に考察を下すべきは、帝國支那の行政なり。吾人は支那に就ては只行政といふを得べきも立憲といふを得ず。何となれば立憲なる語の中には一個人及び法人が一分は自己の特別なる利害に關し、又一分は國家に關して獨立の權利を有するの義を含むなるに、同國に於ては此の元素を欠くを以て行政なる語を用ゆるを得べきも立憲なる語を用ゆるを得さればなり。支那に於ては、絶對的平等主義實際に行はれ、只人と人との間に成り立つ所は價值ある人にあらざれば官吏に任すること能はざるの一事のみ。さて平等行はれ、自由は人に由りて同じからざるを以て政府は勢ひおのづから擅制主義を行はざるを得ず。ソモ我が歐米に於

ては、人は法律の前に同等たり、又財産權を重するの点に於て同等たるのみにして、その他の事に於ては、多くの特權利益を有し、且つ吾人若し自由を得んには、この特權利益は必らず保護を受けざるべからざるをれども、支那帝國に於ては、毫もこれらの利益を重んじるとなく、政治は一に帝の獨裁に任そなり。帝の下に文武の官人あり、文官は武官の上に位す、武官は我が歐米の武官に似たり、官人は學校に在りて學科を受け、之を修練せ、而してその初等の課程を修めんか爲めには、初等の學校あり、又高等學校もあれども、願ふに我が大學の如き高尚の學科を修むべき場處はあらざらん。又高等官に昇らんと欲するものは屢、試験を経ざるべからず。この試験の數は通常三回あり、その第三回の試験——即ち最後の試験は、この最後の試験には皇帝親臨せらる。——第一、第二兩回の試験に及第したるものに限りて之を受くるを得。この試験に及第するときは、最高等の官人に登庸せらるゝことを得るなり。試験課目の重なるものを支那歴史、法律學、風俗習慣に關する學、政府の組織施政に關する學と爲す。此の外また詩作に巧みならざるべからず。

武官も亦學力の試験を経ざるべからざるの制規なれども、已に官途に就てより後、文官の如く優待せらるゝことなし。

官吏の數は、支那全國に於て文官凡そ一万五千人、武官凡そ二万人あり。

各地に一名づゝの風俗視察官を置き、百事を上奏せしむ。風俗視察官は終身官にして頗る勢力あり。政治に關する百般の事と官人の公務に關する行狀とを嚴正に監督し、直ちに之を帝に奏す。又帝を諫争するの權あり。

支那の行政を去りて司法に移らんには、同國に於ては、族長政治の主義によりて臣民を未丁年者の如くに見做し、印度の如く獨立の門族ありて自己の利益を保護する等のことなく、凡て皇帝の指揮管理を受けざることを能はず。法律上の關係は、凡て規則によりて之を確定し、毫も自決に任かすことなし。左れば家族互相の關係の如きも、法律を以て之を決し、侵すものはその種類によりて嚴罰を蒙むるなり。又法律は、何人にも已れを賣り、已れの子女を賣ることを許すが故に、妻をば固より之を買ふことを得るなり。一人にして多妻を有するその中に、正妻は自由人なれども、妾は凡て奴隸なれば、家財沒收の場合には子女若くは家財と同じく取

押へらるゝなり。

次に注意すべきは第三点即ち刑罰は概ね体罰なりといふこと是れなり。夫れ吾人の間に在りては、體罰は頗る名譽を毀損するといひて之を嫌へども、支那に於ては名譽の感情いまだ發達せざるより、鞭撻の苦の如きも、吾人の如く之を耻とするることなく、政府も亦之を報復的の罰とは思はずして寧ろ之を矯正となし、恰かも父母が子女を懲らして之を矯正すると同一視せり。

支那に於ては家族の關係に就ての法律に反れるものも亦國家に就ての法律に反れる場合と同じく、外部の罰を蒙むるの定規たり。左れば子にして父母の敬禮を怠り、弟にして悌道を守らざるるときは、みな管刑に處せられ、子弟若し父兄の已れに對する不公を訴ふるときは、たとひその訴ふる所事實にして訴ふべき理由ありども、管一百の罰を興へ、若しその訴ふる所事實にあらざして訴ふべき理由なきときは、之を絞罪に處す。子若し父に對して手を擧ぐるときは、紅熱針を以てその肉を裂きて之を罰す。夫婦の關係も亦他の關係と同じく、極めて嚴重にして不貞のものは嚴しき罰を蒙むらざるを得ず。官人も亦管刑を免かれ難く、大臣寵

臣といへども、屢この罰を蒙むることあり。

〔羽化生曰く支那に於ては、また故意に出でたる罪と、過誤に出でたる罪との間に區別を立てず、誤て人を殺したるものといへども、均しく死刑に處するなり。又有害と認められたる書を公にするときは、著者、刊行者、購讀者共に同じく刑に處せらるゝあり。嚴亦甚しからずや。〕

支那人は報復の心極めて強く、所謂睡皆の怨も必らず報するの性を具ふ。左れど被害者は報復の念の甚だ切あるにも拘はらず、復讐を行ひ肯んぞるものはあらず。その故は刺客はその全家悉く死刑に處せらるればなり。是を以て讐敵に向て怨を報せんと欲するものは、みづから己れの体を傷つけ、彼れの所爲なりと訴へて之を窘しむ。支那にては投身者を防がんか爲めに各都會の地の井の蓋を嚴にせざるを得ず。何となれば若し身を投して死するものあるときは、法律は概ね酷にその自殺の原因を探求し、苛くも死者の敵黨と認めらるゝものは捕へて残酷なる拷問を行ひ、若し死者に侮辱を加へたりとせらるゝときは、その全家は悉く死刑に處せらるればなり。左れば支那人は報復の念の切なるに當りて、敵を殺す

ことをなさずして、寧ろ自殺を行ふなり。何となれば二者均しく死せざるを得ざるのみに止まらず、自殺者は死後埋葬の禮を厚ふするを得、且つ遺族は敵の財産を受くべきの望あればあり。

上來述べし如く、支那に於ては、他人の榮譽を重んずることなく、何人も個人的權利を有せざるが故に、隨て自棄自暴に陥るべきは當然のことといふべし。而して既に自棄自暴に陥りたる以上は、徳義は全く地を掃ひて、凡そ人を欺き得べき限りは之を欺きて恬として顧慮せず。朋友は朋友を欺けども、若しその成功せずして發覺したる場合には、欺くもの別に耻つる色なく、欺かれたるものも亦世上一般の事として敢て怒らんともなさざるなり。

更に一步を進めて支那國政の宗教的側面を觀察せん、ソモ族長政治的狀態に於ては人の宗教心は人間的關係——即ち道德善行——のみに止まりて、神その者をも、一部は善行の簡單なる抽象的規則と考へ、又一部は之が裁制を司る所の權力とも考へ、而してこの簡單なる狀貌に於ての外、あらゆる自然界の關係、主觀の定則心と靈魂との定則を無視するものなり。支那は固より族長政治的擅制主義なる

が故に、上帝とかゝる聯絡、上帝のかゝる仲裁を要することなし。何となればかゝる聯絡、かゝる仲裁を必要と感ずるとも、そは教育と、道德禮儀の法則と、帝の命令管轄とが之を備ふればあり。

支那帝は國家の元首として、兼ねて宗教の元首たり。是を以て支那の宗教は、實に國家宗教たらざるを得ず。左れば支那の宗教は吾人の所謂宗教にあらず。その故は吾人の所謂宗教とは心靈が自己の中に退きて、その主要の性質、その最内部の存在を熟考するの義なればなり。吾人の所謂宗教に於ては、人は國家に對する關係より退き、世俗政府の羈絆を脱すべきに、支那の宗教は此の階級に昇ること能はざればなり。

支那の學術も亦真正の主觀を欠けり。ソモ吾人は支那の學術如何を窺はんとするに當りて、先づその意外に完全あると、舊きとに由りて、一驚を喫せざるを得ず。更に一層之に接近するに及びて、その一般に尊崇せらるゝを知り、加之のみならず、政府が公に之を讚美し、之を獎勵するを知る。左れば皇帝その人も亦文學を重んじ、勅令の文章の巧妙ならんが爲めに、特に勅命のみを草する學校を設けり。勅

令已に前の如くなれば、その他は推して知るへし。

今その大略を擧ぐれば、大臣は文章の巧妙と事柄の卓絶とは相伴ふものとの仮定より、布告の文章に巧みならんと欲して、頻りに之を練磨し、大學校は最高等官衙の一たり。皇帝みづから校員の試験を行ひ、校員は宮内に住して、尙書、大史、物理博士、地理博士の職を兼ね、新法案を草するに當りては、大學は申命書を添へざるを得ず。この申命書の小引として現行法の沿革を記さざるを得ず。法若し外國に交渉するときは、またその理由を逐一記さざるを得ず。而して皇帝みづからその序文を草するなり。輒近學問を以てもつとも著はれたる皇帝を乾隆帝となす。同帝はみづから數多の序文を草したりき。然れども帝は同國古今の名著作を刊行したるを以て、更に一層世に知られたり。書籍刊行に關する校訂委員長は皇族の一人なりき。各委員一閱校訂し了れば、再ひ之を帝に呈す。若し聊かにても誤あるときは、嚴罰を蒙らざるを得ず。

一面より見れば、學問はかくの如く尊崇せられ、かくの如く獎勵せらるゝが如くなれども、又他の一面より見れば、主觀の自由なる根原を欠き、而して眞に學問を

して精神に於ける劇場的職業シナリオライターたらしむべき心の興味を欠けり。蓋し支那の學問は、自由的、理想的、心靈的の範圍を有することなく、只經驗的性質を有するものにして、全く國家と一個人との要用に應ずるを旨とするに止まれり。

言文の懸隔は、學問の進歩上に大なる妨礙なり。否、寧ろ眞正の學問的興味成立たざるにより、思想を表はすべき最上の器械なきなり。

支那の歴史は、管に定まりたる事實を敘述するのみに止まりて、この事實に對する意見、又は推論を加ふることをなさず。法律學もまた之に同じ。只定まりたる法律を記すのみ。倫理學は、只義務を決定し、主觀的根據に基きて問題を起す等のことなし。

以上の諸學の外、支那にもまた哲學あり。その原理は、遠く易經——命運の書、興亡を論ずる書——に訪まる。易經の中には一元二元の純正抽象的觀念を載せり。之を以て推すときは、支那の哲學はその根本觀念をピタゴラス(Pythagoras) 羽化生者の哲學と同ふするが如し。易經は、道理——道——を根本原理と認め、「道」は全体の基礎にして、百事に關係を有するものとなせり。支那人は易經を以てもつとも高尚の

學問と思考す。然れども彼の只殆んど國家のみに關する教育とは殆んど聯絡を有せざるなり。

老子の書——即ち道德經——は支那哲學書中の卓絶したるものなり。孔子曾て西曆紀元前六世紀に於てこの哲學者老子を訪問し、敬意を表したることあり。支那にては何人も老子の哲學書を讀むべき自由を有すれども、之を研究するを以て、専門の業と爲すは彼の所謂道士——即ち道德を敬する人——なり。道士は全く世俗の關係を絶つものなり。

孔子の書は、吾人が前者よりも更に一層熟知する所なり。孔子は數多の經書を公にし、その外また道德に關する數多の抽象的の書を公にしたり。是れ等の道德書は支那人の風俗行爲の基礎と爲りたるものなり。孔子の重なる書にて英譯せられたるものを見るに、數多の正しき道德上の箴言あり。然れども兎角迂遠の弊を脱し難く、爲めに高尚の思想に達すること能はず。

支那人は數學、物理學、天文學に於て各國の先輩なりとの名譽を博したれども、今日に至りては、遙かに歐洲人の後に墮若たらざるを得ず。成る程歐洲人が是れ等

を知らざりし前に、己に多少是れ等の書を有したるには相違なし。然れどもこれらの智識を應用すべき手段を理會せざりしなり。例へば彼れ等は磁石あるを知り、また印刷術を知りたれども、之を充分に利用するの法を理會せざりしの類是れなり。火薬も亦彼れ等の發明に係れりと誇稱せらる。然れども始めて大砲の術を發明したるものはユエスイト宗徒にあらすや。

支那人は、日常の事に於ても、將た技術に於ても、摸擬の術に長すれども、別に一機軸を出すことは甚だ拙し。彼れ等は美を美としてあらはすことに於て、未だ成功すること能はず。何となればその繪畫に於ても遠景寫法と陰影とを欠けばなり。而してたとひ支那の畫工は歐洲人の畫を正だしく摸擬し得るとはいへ、たとひ鯉が鱗數若干を有すといふことを精密に注意し得るとはいへ、たとひ木葉が刻口若干を有すといふことを注意し、各種の樹木の形狀は如何、その枝の曲がり方は如何といふことを注意し得るとはいへ、高尚理想、美麗に至りては、彼れ等が技術熟練の範圍外といはざるべからざるあり。

以上は支那人民の性情を諸の方位より觀測したるものなり。而してその特色は

如何と問はば、則ち心靈に屬する諸事——理論と實際とに論なく、制限せられたる徳義、心の中の宗教、適當に學問技藝の名を下すべき學問技藝——は、一も之を有せずと答へざるを得ざるなり。帝の言語は常に氣高き中に深切を含み、宛ながら慈母の赤子を受すが如くなれども、その心中には甚だしく人民を輕しめ、彼れ等は只風箏を牽くが爲めに生れ來れる者と信す。人民は堪え難きはどの壓制を蒙むれども、之を必然の運命と諦らめて別に憂と爲さざるに似たり。彼れ等は已れの身を奴隸に賣らるゝことを少しも恐れず。又怨を復せんが爲めに自殺を行ひ、子女を道路に乗つるが如きは、日常の出來事にして、決して珍らしゝと爲さず。彼れ等が自重の心に乏しく、人情を有せざることは、此の二事に由りて推知すべし。而してたとひ彼れ等の間には生れながらにして貴賤の別あるなく、何人も最高等の地位を占め得るにもせよ、此の平等によりて自尊の心を生ずることなく、却て已れを賤め、自暴自棄に傾くが如し。豈嘆すべきの至にあらすや。

第二十六章 多神教。萬有教。無神論

(Polytheism Pantheism, Atheism)

支那の古
今東西に
類なき所
以は何の

孔子は萬

思想の經紀としての孔教は、支那種族が智力的功勞中、最も顯著なるもの、一なり。或は言はん。支那古典の西洋讀者は、其の説く所を多く空論と爲して之を排斥するならん。實に然り。然れども吾人が支那古典の既往現在に就て深き感動を起すは、之を閱讀するに由りて然るにわらず、其の成績を考ふるに由りて然るなり。抑も支那國民は、人口の多き、遠く他の國民に超絶し、其の史籍の舊き、古今萬國、一も其の右に出るものなし。夙に建國の初より今日に至る迄、凡そ五千年の其の間、同一の國體を保ち、開闢以來、依然として祖先の地を有ち、古今によりて情勢を異にせず。眞に世界無比の國といふべし。然らば、此の無比たる所以の原因は何か。此の古今同一なる無數の人民は、如何なる手段に由りて管理せられしや。彼れ等に限りて國民必衰必滅の普遍天則を免かれたるの觀あるは何故ぞや。此の問題を深く推究したる人々は、其の解く所、符節を合するが如し。曰く。他の國民

世の師なり

孔子の教
は純正の
教なり

は、形而下の力に頼りて立てるに、獨り支那人は、形而上の力に頼りて立つを以て、此の成績を生したるなり。苟くも歴史に精しき學者、人性に通曉せる觀察的旅客は、支那の徳義が古今の人心を維持し、之を左右するを見て、深く感じ、甚く畏れざるはなし。ウヰリアムス博士(Dr. Williams)曰く。孔子が萬世の師と爲りて、末代を風化したるの力は、眞に無限といはざるべからず。夫れ斯の如く無限なり。推して以て其の徳の盛んなりしを察すべきなり。レック博士(Dr. Legge)曰く。孔子が人間の當務を教ふるや、敬すべく、感すべし。但し其の教は、之を完全と稱し難し。然れども孔子の好で教へたる四事——即ち文、行、忠、信——中の下三事、信、忠、に就きて、彼れの述べし所は、天則に合し、福音に合して一点の間然すべきなし。此の説若し悉く行はれたらんには、眞美の世界の現はるゝや疑ふべからざるなりと。

(註論語述而篇に云く。子以四教。文、行、忠、信。)

支那古典の中に、讀者の心を卑しくすべき事項の一点も存するなきは、其の最も重んずべき特徴の一にして、此の点に於ては、印度、希臘、羅馬の文學と全くその趣きを異にせり。ミーマウス氏(Mr. Maunus)曰く。支那文學の如く、神聖にして純潔に、直譯す

孔教は國
家長久の
基と爲る

れば「狼褻の辞なく」なり。且つ聊かも禮に欠くる所なきは、上古及び中古に於て他に類例を見ず。此の聖書支那と其の註解古註及ひとは、一言一句だも英國の家庭に朗讀し得べからざる所なし。又支那以外の非基督教國に於ては、偶像教といへば、人間を犠牲に供し、邪神を信して、淫猥なる祭儀酒宴を以て之に伴へども、支那に於ては、一切此の弊を見ずと。

（第一）皇帝をして善政を行ふべきの責を直接に天に負はしむること（羽化生曰く、天下民を降して之が君と作し、之が民と爲す。惟れ曰く、其れ上帝を助けて之を寵せよ。四方の罪あるも、罪なきも、惟だ我れに在り。孟子梁惠王篇に引くの類是れなり。）（第二）人民を以て施治者よりも緊要と爲すこと。又曰く、后、民にあらざれば以て四方に辟たることなし。論衡民を貴しと爲す。社稷之に次ぐ。君を輕しと爲す。孟子の類。第三）智徳あるもの施治者たるべしと爲すこと。又曰く、舜、禹、湯、武の君と爲りし類。第四）施治者は徳に基くべしと爲すこと。第五）人民互に五常を旨として交はるべしと爲すこと。第六）已れの欲せざる所を人に施すべからずと爲すこと。論語以上の諸項は、孔教の眼目にして、高く支那人一般の思想の水平上に聳え、諸の觀察者の注意を惹けり。今や吾人

は、漸く本書を終はらんとするに臨み、孔教の徳義上に於て優れたるを激賞するは、最も望ましきことなり。何となれば其の卓絶の真相を明かにするは、則ち支那人民を正だしく理會する所以なればなり。更に詳に之を言へば、孔教かくの如く卓絶せるが故に、其の後、文官試験の用に供し、以て今日に至りたれば、民心は、おのづから此の教の爲めに陶冶せられて、驚くべき迄に一定し、候補者は、前途の爲めに政府の安固を希望するより、國家を永遠に持續せしむること、は爲れり。

支那人は
眞の神を
認めず

支那人は、曾て唯一眞正の上帝を認めしことありや否やは、重大の問題なり。最も批評的に支那古典を研究したる人々は、吾人に保証すらく、學者の多數は、上帝を認むと。又、獨立的斷定を主張する人々は言へらく、否、之を認めずと。假りに兩説を折衷し、支那人癡きに上帝を認めしことありとするも、歲月と共に多く消滅して、殆んど其の痕跡を遺さること恰かも古錢の銘の千歳を経て腐蝕せるに似たり。『吾人の思考する所にては、此の問題曾て上帝を認めしことありや、又は全は、或る人々の思ふが如く、實際上に緊要ならざるが如し。而して現在の目的より言へば、全く認めしことな

國民は支那の
人々多神
教信徒なり

しと断定するも不可なるべし。其の故如何と尋ねるに、吾人の今講究する所は、歴史上、又は理論上の事にあらずして、實際上の問題なればなり。換言すれば、支那人と其の鬼神との關係如何といへる是れなればなり。初め支那人が古の聖賢を欽慕するより、漸く之を追尊し、遂に之を崇拜するに至りたる、其の段階を追索するは敢て難きにあらず。蓋し支那の諸神は悉く死人ありしといふも不可なきが如く、祖を祭るの儀式より推せば、或る意味に於て、支那の死人は悉く神なりといふも不可なきに似たり。又廟宇の如きも、帝の允可を経て、生前名聲を顯はしたる人の爲めに建つること絶えず。此の豪華の中には、多年の星霜を経る間に諸神の最上位を占むるに至るべきを期すべからず。國民としての支那人が多神教信徒たることは疑ひの容るべきなきなり。

支那人は萬有崇信
徒なり
風神、雷神

人に萬有崇拜の傾向あることは喋々を要せず。世に人力の得て抵抗すべからざる力あり。人の得て知るべからざる力あり。人漸く此の力を認めて性情を有すと仮定し、又之を人に擬して深く之を崇敬するに至る。世に風神、雷神等の廟宇の多きは之

神等

日月を祀

樹木を祀

天地を拜

が爲めなり。而して北極星も亦常に人の崇拜する所なり。北京には、天子の宗廟と聯絡して日廟、及び月廟あり。又地方に依りては、二月某日を以て太陽の誕辰と爲し、人民一般に之を拜するを義務とす。當日に至れば、村人、朝は東方に出で、旭日を拜し、夕は落日を護送すると稱して西方に出で、之を拜す。

萬有崇拜中の最も普通に行はるゝは、樹木を祀る是れなり。支那の或る省例へば、西(北湖南)に於ては、此の樹木を祀るの風一般に行はれ、大小諸種の樹木數百株に小旗を建て、神靈の憑る所と爲して、之を拜す。又處に依り、陽はに祠を建て、之を祀らざるも、迷信の深きことは決して他に譲らざるあり。若し茅屋の前に蕪鬱たる舊木の存するあれば、其の持主は、精靈の宿れるを思ひて、之を伐り肯んせざるなり。

支那人往々以爲らく、天を拜するは天子の特權にして、他人の爲し得べきにあらず。帝みづから廟宇に至りて天を拜す。その儀式の珍奇なる、恐らくは他に類例なからん。さて或る人々は、右の如く、天子にあらざれば、天を拜すること能はず、又地をも拜すること能はずと爲せども、一般より言へば、かゝる意見を懐くもの甚だ少なし。家に依りては、南方の壁間に祭壇を設くるあり。或る地方に於ては、之を天地の祭壇

と稱す。吾人又多くの支那人に質すに、我れ々々が營む所の宗教的儀式は、祖先を祀ることの外、只毎月朔望の二日、或る場合によりては、新年の初に天地を拜し、供物を捧ぐるの一事あるのみと云り。其の法たるや、一言の祈禱を爲さず。一時の後、供物を下げて之を食するなり。吾人屢、彼れ等に質疑を試み、足下等が天地を拜すると云は、果して天地の何者を拜するにやと問へば、或は答へて曰く、即ち「天地」を拜するなり。又曰く、「天」を拜するなり。又曰く、「空中の老人」羽化生著、老子を拜するなりと。丙の答は則ち支那人の腦中に人類の鬼神の觀念あるを証するものなり。さて又此の空中の老人とは何かといふに、或は「祖母地」なりと仮定する人あり。是れ又一新問題なり。或る場處に於ては、六月十九日を以て、「空中の老人」を祀る。而して當日は老人の誕辰なりといへり。又曰く、六月十九日は、太陽の誕辰あり。太陽は則ち老人の父なりと。一定の意見あらざるが如し。

下流の人は多神教を奉し、萬有教を信すれども、上流の人は之に反して純乎たる無神論者なるが如し。此点に精しき人々の証する所に従ひ、又表面に現はれたる徴候

及び先例的或然下文に徴すれば、世に教育ある文明人の一團體にして、全然不可思議説を執り、無神論を主張する、孔門徒の如きはあらざるを知らん。

(原註) ミーダウス氏の説に據るに、凡て純乎たる孔門徒所謂は、眞の無神論者たるべきなり。然れども、理想的に自セルフ、コンシステント立なるは、人性の世だ稀なる所なれば、孔門の徒といへども、或は神を信し、又は信すと思考するもの多しといへり。

茲に『先例的或然』と稱する句は、宋朝の格物的註解者所謂理學家が支那古文學の上に及ぼしたる勢力をいふ。有名なる支那古典註解の大家朱子は、一時非常の勢力を思想の社會に有し、苟くも其の意見に疑を容るゝものは、悉く異教徒視せられたり。而してその影響たるや、遂に古典の教を唯物的の教と爲らしめ、加之のみならず、全く無神主義の教と爲らしめたり。

黄河は源を山西、陝西の諸山に發し、混々數百哩を流れて海に入る。後年頗る方向を轉し、揚子江より白河に至るまで、凡そ六七緯度の範圍に涉れり。此の河一たび汎濫すれば、跡に砂石を遺して礫确の地と爲し、其の害頗る多し。然れども、彼の宋朝の註解家が後世に遺したる害に至りては、固より黄河の比にあらず。彼れ等は、七百年來、

支那思想の潮流を汚し無神論と名くる砂石を跡に遺して徳義的耕地を荒らしたれば國民の心靈界を害する幾何なるを知るべからず。

道教は後世に至りて一種の魔法に變せり而して大に佛敎を借りて我が足らざる所を補ひたりといふ。佛敎の支那に入りたる所以は孔敎猶未だ人性の需要を悉く満足せしむるに足らざるを以て其の欠を補はんが爲めなり蓋し道教や佛敎や互に相補ひ相改めてみづから變更する所頗る多きが如し詳言すれば孰れの敎にもせよ已れに短なる所あれば他の長する所を取りて之を補ひたる状は宛ながら蝙蝠傘を新調せんと思ふ人の傘商に到りて之を購ふに髣髴たり事情斯の如きを以て支那人が宗教の新舊己れの弊しを糾すを要せざることは猶英人の蝙蝠傘の新舊を糾すを要せざるが如し。

支那人と『三敎』孔敎、道敎、佛敎との實際の關係は、アングロ、サクソン人と其の國語を組み立つる材料との關係の如し。試に英國の學者を見よ其の用ゆる所の言語には羅句語頗る多く、ノーマン語も亦少なからず。又同國の農夫は純平たるサクソン語を用ゆるが故に、一見甚だ逕庭あるに似たりといへども其の根本に溯りて之を尋ねれば、

學者も農夫も皆均しくサクソン語の人民にして羅句語の如き、ノーマン語の如きは其の附加物に過ぎず。支那人の孔敎に於けるも亦かくの如し。佛敎や道教や其の長を取りて多く之を採用するといへども畢竟其の根本は唯一の孔敎あるのみ。但し英人は同ト文章の中に三語を併せ用ゆるも爲めに其の思想の上に錯亂を生ぜざれども支那人が三敎を兼ね用ゆるに至りては其の儀式の上に矛盾なき能はざるなり。支那人の徳義をして其の標準を卑からしめたるも畢竟此の矛盾より起れるなり。

第二十七章 支那の實狀并に現時の必要

孔敎の古典は支那の爲政家が頼りて以て政治海に舟をやらむと勉むる所の海圖なり。此の海圖は人類の手に成りたる海圖中の最も善美なるものなれば吾人は故ウヰリアムズ博士 (Dr. Williams) レッグ博士 (Dr. Legge) 等と共に其の編者は或る意味に於て天命を受けたりと稱するも大過なきに近からん。今や支那と歐米各國との

關係は、目を逐ふて密着の度を加へ、甲の乙に及ばず影響また漸く大ならんとす。此の時に當りて、左の三点を攻究するは、最も緊要の事なるべし。曰く、支那人、此の舟を行りて、如何に功を奏せしか。曰く、如何なる海に航せしか。曰く、今日は如何なる方針に向ひつゝあるか。

蓋し聞く、社會の徳義界には、六徴あり、みな顯著なるものなり。今若し此の六徴を悉く詳にするときは、則ち其の社會の眞性を確認することを得べし。六徴とは何ぞや。(第一)實業の狀況、(第二)社會の習慣、(第三)女子の地位、并に家族の性質、(第四)政府の組織、并に施治者の性質、(第五)公共教育の狀況、(第六)宗旨の信仰と實際世界との關係是れなりと。

予は、支那人各種の氣質を論ずるに當りて、以上の諸点を間接に説明したり。勿論不充分なり、且つ是れ等の問題を充分に解釋するに必要なる對照的觀察を欠けども、然れども支那人の氣質たるや、視察の範圍廣大なるを以て、數多の題目を全く放擲せざるを得ず。本書に擇びたる諸の氣質は、只頼りて以て外線を畫し、全體を畫くべき所の諸点に過ぎず。故に支那人を充分に畫かんと欲せば、他に數多の氣質を明かにせざるべからざるなり。

にせざるべからざるなり。

上來支那人各種の氣質を例証するに當りて、既に引用したる事實は、みな其の標本として擧げれば、恰かも一箇の骨格を構造すべき數多の骨の如し。構造せられたる一箇の骨格を見んと欲せば、必ず先づ是れ等の諸骨を各自適當の地位に置かざるべからず。仮りに若し是れ等は全く骨にあらず、單に石膏粉なりといふことを証し得たらんには、イザ知らず、苟くも然らざる以上は、之を等閑に附すること能はざるなり。或は駁撃するものあらん。諸骨多く各自の地位を誤りたり。故に骨格また眞正の觀相を呈せず。實に然り。予は謹て此の批評を甘受せんとす。何となれば既に引証したる諸種の氣質より、支那人の完全なる觀念を得能はざること、宛ながら目鼻、頬を詳叙したりども、顔面の完全なる觀念を得能はざると一般なるべければなり。然れども吾人は又同時に、書中の判斷は、咄嗟の間に成りたるにあらず、山なす實驗に基きたれば、其の確實なるは、吾人の深くみづから信する所にして、餘多の事實に由りて証するを得べき所なり。仮りに一步を譲りて、判斷には誤謬を免かれ難しと爲すも、事實は決して否定すること能はず。事實は譬へば猶北支那に有名な

る砂雨ダスト・ストームの如し。砂雨は、極微の砂塵を以て耳目鼻口に充て、頭髮衣服を汚し、時としては、雷電晦冥なることあり。今若し其の原因如何を論じなば、其の論する所、往々誤なきを保せざれど、只其の事實を叙するに止むるときは、一点の誤なきを期するを得べし。反復す。本書の理論には、たとひ誤謬ありと爲すも、叙事は決して誤なしと稱するを得ん。但し砂雨は有形の現象にして、支那人氣質は無形の現象なれば、甲は何人にも一目瞭然たるべきも、乙は見るべき機會、見るべき意志、見るべき能力の三者を具へざれば、見能はざるの差あるのみ。

支那の人生は二様の全く異なりたる觀相を呈す。故に其の一を見て他を見ざれば、判断必らず其の當を失ふ。而してみづから當を失ひたるを知らざるべし。さて斯く陽はに反對せる觀相を取りて、心裏に之を聯合するは容易の業にあらず。然れども之を遂げざれば、真相を窺ふこと能はざるなり。

今の支那人の品位

孔教の徳性の高尚なることは、前章既に叙述したるが如し。故に吾人は其の教化の下に高德の士を多く生じたらんと信せざるを得ず。然れども更に精密に其の成績を調査すれば、かのづから左の問題の起るあらん。

(第一) 孔教は、高德の士を夥多しく生じたりや否や、一般人民をしなへて其の餘澤に由りて徳義の程度を高ふせしや否や。

(第二) 左に掲ぐる三項の問題に就て、人間の眞性を發達せしめしや否や。

(甲) 已れに對する關係

(乙) 同胞に對する關係

(丙) 我か崇拜する客體オブジェクトに對する關係仰ち上帝。又は偶像。或いは信するものに對する關係。辭を換へて言へば、何

さて人類眞正の地位を定めんと欲せば、必らず此の甲乙丙の三点如何に基かざるべからず。今の支那人が此の三点如何は、吾人が開卷以來、縷陳する所によりて明かなれど、更に之を反復すれば、其の已れに對し、并に同胞に對する關係如何は、信實の欠乏に由りて知るを得べく、同胞のみに對する關係如何は、愛他主義の欠乏に由りて知るを得べく、我か崇拜する客體に對する關係如何は、多神教徒たり、萬有教徒たり、不可思議論者たるに由りて知るを得べし。

支那人の (461)

支那人の欠く所は、インテレクチュアル、フィジカル 能にわらず、ベインシブス、プロダクティブ、カリチー 忍耐、實務の才、及び チンフルチム 満足にあらず。此

の三者は特に其の長所たり。彼れ等の欠く所は品行及び良心なり。勿論支那官吏の中には賄賂の爲めに誘惑せられず『天知る地知る我れ知る子知る』所謂楊震の四知なり。第八五頁參の説を信して一切不正の所業を爲さざるものもあらん。然れども今若し不適任と知れたる親戚を強て官に登庸せられんことを望みて、包苴を齎らすものあらば、能く此の誘惑に抵抗し得べき官吏は果して幾何ありや。諸君、假りに身を支那官吏の地位に置き、常に此の誘惑に抗抵したらんには、我か家政如何と想像せよ。彼れ等が不正と知りつゝも此の誘惑に従ふは不可思議にあらざるべし。左れと實地に臨みて此の問題をすらも心に起すものは甚た稀ならん。支那の政府部内に諂諛と『電信』との盛に行はるゝを知らば、守門巡邏の小吏が守正精勤を以て我か本尊と爲さるるも敢て驚くべきにあらざるなり。

支那人の徳義に關する眞狀を知らんと思はゞ、支那人自身の助を借るも亦一良好手段なり。支那人固より已れと已れの朋友との過失を掩はんと勉むれども、輒もすれば眞摯に國民が品行上の弱點を自白することなきにあらざる。或る支那人が他の支那人の事を叙するを見れば、吾人をして彼のカーライル(Carlyle) 一七九五年(我か寛政七年乙卯)生れ

カーライルがフレ德里ック大王傳中の一節

八一年我か明治十四年辛巳死す。英國有名なる史家、論文家なり。羽化生書、英國文學史の中に傳あり。フレ德里ック大王傳』Life of Frederick the Great』あり。他日公に述べしものの中に面白く記したる對話を想起せしむ。カーライルが吾人に傳ふる所に據るに、大王一日、我か嘉みとる所の一學校長と相會し、問ふて曰く「スルツェル君(M. Sulez)よ、學校の近狀如何」スルツェル答へて曰く「陛下よ、我か國の教育法は漸く宜しきに向へり。輒近に至りて、其の宜しきに稱へることは、前日の比にわらず。問へ何故に輒近に至りて宜しきに稱へるや。答へ難きに我か教育社會の人々は以爲らく、人性は悪なりと、是を以て學制おのづから嚴に失したり。今や彼れ等は人性の寧る善なるを發見したり。是を以て學制おのづから寛に向へり。天王此の一言を聽きて首を振り、苦笑しつゝ曰く「何に、人性は寧る善なりとな。噫、スルツェル君よ、朕今足下が那の天殺的種族を知らざるを知られり」。(Er kennt nicht diese verdammte Race. (英譯 I see you don't know that damned race of creatures.) 譯釋當ならす。他日を待ちて改正すべし。)

支那の社會は猶同國の景色の如し。ソモ同國は遠く之を望めば、風光甚だ愛すべしといへども、親しく其域に入るや、家屋概ね粗惡にして貧民多く、到る處の不潔なる

外面と内
實と異な
り

支那社會
と西洋社會
の對照

に至りては、人をして殆んど嘔吐を催ふさしむるものあり。寫眞術如何に巧みなるも、その真相を描くこと能はず。何となれば、たとひ其の他の点は、能くその眞を寫すも、不潔と惡臭とに至りては、毫も之を寫すこと能はざればなり。
夫れ世界は廣し、萬國は多しといへども、支那の如く常に目前に幸福の徵候を呈するものはあるべからず。然れども久しく經驗を積み、その内情を詳かにすれば、此の幸福の凡て外面に止まるを知るべし。吾人は信す。亞細亞に於ては、眞正のホームなるものあらずといへる批評の能く其の當を得たるを。

吾人が擧げたる支那社會の弊害は、概ね西洋『有名無實の基督教國』に於ても亦存する所の弊害なるべし。故に讀者或は吾人を責むるならん。何故に支那の弊害を取りて之を西洋の弊害と比較せざるや、何故に或る弊害は支那の特有にして又或る弊害は西洋の特有たるを詳叙せざるやと。然り吾人は此の計畫を爲さざりしにあらざ。然れども中道にして其の念を絶ちたるなり。ソモ著者の熟知する所は只我が合衆國のみ、其の他の諸國の如きは、其の視る所、外面に止まりて深く其の内情を察するの暇を得ず。今その深く察せざるの諸國を取りて、之を對照の一方に備へんとせ

支那は猶
深夜たり

支那目下
の必須

ば誤まらざらんと欲するとも能はざらん。是れ著者が此の比較の念を絶ちたる所以なり。讀者諸君、願はくは本書を閱讀せらるゝに當りて、みづから此の比較の勞を取られんことを。但し其の比較の法は、可及的『自國最負』の念を棄て、彼此優劣如何の決し難き所は、勉めて支那を優者の地位に置くべし。かくて比較を遂ぐるならば、たとひ其の得る所の結果は、支那最負の比較より得たりとも、猶西洋諸國は漸く東天光の時刻に向ひつゝあるに、支那は猶深夜たるを知らん。

吾人は反復す。支那に必須なるは唯品行、良心の二者のみ。否、只一者のみ。何となれば、良心は品行なればなり。或る人、有名なるピアノ師を評して曰く、彼れは恰かも其の機械ピアノの如し。即ち四角に、正だしく、且つ大なりと。噫、支那に於て、かゝる品行の人に會せしものありや。

輓近此の世を去りたる英國一文學者チャールズ・キンの傳記に、其の未亡人は跋を記して曰く、世人は彼れを著述家として、説教家として、社會の一員として判断すべし。然れども彼れと起居を共にしたる人にあらざれば、彼れが一個の人間として如何

なりしかを評すること能はざらん。親しく彼れが生活の旅行を觀察し、其の私信の情と愛とに満ちたるを熟讀したるものにあらざれば、其の真相を穿つことを得ざらん。未亡人猶語を次で曰く。

But it will not be lifting it too far to say, that if in the highest, closest of earthly relationships, a love that never failed——pure, passionate, for six and thirty years——a love which never stooped, from its own lofty loved to a pasty word, on impatient gesture, or selfish act, in sickness or in health, in sunshine or in storm, by day or by night, could prove that the age of chivalry has not passed away forever, Charles Kingsley fulfilled the ideal of a most true and perfect knight to the one woman blest with that love in time and to eternity.

(此の多情の文譯すれば味を失ふ。故に原文の儘に掲ぐ。)

基督教的文明の最良結果は、其の美しき愛情を發揮するに在り。而して其の發揮は稀に見る所にあらず。キングスリー夫人の例の如きも、現に數百を以て數ふるを得べく、古今の記録に載する所、數千の多きあり。讀者諸君も亦かくの如く、赤心以て一身を他人の利益に任かせたるの實例、少なくとも一箇を知らるべく、或は親しく實

其の眞實の
者

支那を改
善するの
法如何

驗せらるゝものあるべし。さて如何して斯の如き人を生せしや、如何して斯の如き感情を起せしや。必らず理由あくんばあらず。假りに若し或る種の方ありて、支那の人生にキングスリーの如き品行(但し夫人の所陳に據る)を生するならば、其不可思議豈に道教の書に載する所の不可思議の及ぶ所ならんや。諺に云く、其の成績に由りて其のものを知れ。[By their fruits ye shall know them]と。人間の制度は決して此の天則を免かるゝこと能はず。孔教始めて支那に顯はれてより、茲に數千年。願ふに其の教化の方は細大悉く功を奏し盡せしならん。故に其の成績は既に悉く顯はれたるものとして、さて之を判するに、孔教は、人類の獨力にて神の力を借る力を借る意を借遂げ得る限りの事は悉く之を遂げて餘蘊なく、此の點に於ては、他國の遠く及ばざる所なりといへども、虚心平氣以て其の成績を審査するに、痛ましくも一言以て之を斷せざるを得ず。曰く、『孔教の成績は支那なり』と。

支那を改善するの法如何に就ては、三項の相容れざる意見あり。其の第一の意見に云く。

(第一支那の改革は不必要なり)

支那人自身の中には此の意見を懐くもの多く、外人といへども、遠方より支那及び支那人の盛氣樓を詠めたるものには、また此の意見を懐くものあり。

(第二)支那の改革は遂に行ふこと能はざるべし

此の痛嘆的断定は、改革の前途に障碍物の推積するを見て、落膽したる人々の爲す所なり。此の類の人々は以爲らく、支那人民の如き莫大の團體に改革を行ふの難きことは、恰かも埃及の木乃兒に電氣を通して其の生命を恢復せんと求むるが如しと。

吾人より之を見れば、第二の意見の不道理なることは殆んど第一に譲らず。然れども吾人が既に此の改革に就て述べたる所若し功を奏する能はずと爲さば、勢ひおのづから此の第二説に陥らざるを得ざるなり。

(第三)支那改革は必要にして且つ行ふことを得べし

此の種の論者に取りて最も緊要なる問題は、如何なる手段を用ゐて改革を行ふべきかといへる是れなり。而して此の手段に就て、意見の同じからざるは敢て怪むべきにあらざるなり。今逐次に之を叙述せん。

支那は内
部より之
を改革す
べきを得
べきや否
や

(甲)支那は内部より之を改革するを得べきや否や

支那有数の政治家にして改革の緊急を悟れる者は皆曰く、改革は内より之を行ふことを得べしと。近日の北京ガゼットに載する所は則ち其の一例なり。其の記事に據るに、中央部なる或る省の人民兎角粗暴なるに依り、政府は適任者若干名を派遣し、到る處に康熙帝の聖諭の中に在る金言を説かしめたり。コハ聖諭の力に據り、人民の品行を改良せんと欲してなり。蓋しかくの如く、人民の前に教を説かしむるは、もと基督教の説教に倣ひたるものにして、盛んに矯風上に用ゐるしかど、更に良好の成績を得ず。左れば支那政府は猶懲りすまに何遍となく之を行へり。

既にして唯訓誡のみにては好結果の得られ能はざるを悟りしかば、以爲らく、官吏みづから模範を示さば、必ず効驗あらんと。此の法固より善からざるにあらざる。然れども心に感ずる所を弘布すべき力を有せざるを以て、遂に意の如くならざるなり。今一例を挙げん。婁きに張之洞が山西省の總督たるや、官吏の間に行はるゝ吸鴉烟の風習と、人民の間に行はるゝ罌粟培養の風習とを矯めんと勉めたりき。然れども隸屬の中に誠心誠意以て長官の趣意を貫徹せんと謀るもの甚だ少なく、隨て張

の盡力は終に膏餅に屬せり。蓋し此の類の策は其の効驗最も顯著なる場合といへども、猫が鼠を棚より逐ふが如きに過ぎず。猫の居る間は鼠は影を隠して出でざるべし。然れども猫が去るや否や、鼠は再び出で、害を恣にするなり。

支那の政治家は、國家改革の責を以てみづから任し、且つ改革し得べしと信す。其の故は、既陳二法の外他に改革の手段を知らざればなり。活眼なる英國の一官人ハリスが「東洋人が國事に冷淡なると、運命主義に傾けるとは、改革の大敵なるを察し、永久の改革を行ふに必須の條項あるを悟りしが、此の人南支那銅鑛の事に關せる惡弊を述べ、且つ曰く。

採銅の業を充分にせんには、豫め雲南の人口を増加せざるべからず。道路を經營せざるべからず。上揚子江の航行を便にせざるべからず。之を簡言すれば、支那を開化せざるべからず。若し外力の之を鼓舞するなくば、一千年を経るも猶完成すること能はざらん。

外力の助を借らずして支那を改革せんと企つるは、海中に於て船を造らんと企つるが如し。空氣と水との諸則は、之を妨げて、功を竣へ能はざらしむべし。機關の内に

支那は各
國に親交
するに因
りて面目
を改むべ
きや

支那は自
由貿易等
によりて
改革を行
ひ得べき
や

終始する方は其の機關を動かすべき力を有せずといふは機械學の原則なり。古典に云く、朽木は雕すべからず。論語公治長篇に載す。孔子の語なり。支那は之を改造せざるべからず。内部より改革せんと望むは難きを求むるものなり。

(乙)支那は各國と親しく交通するによりて面目を改めざるべからざるか

此の意見は、久しく西洋人の懐く所なり。然れども歐米強大國が公使を北京に駐劄せしめてより、茲に三十餘年、其の間如何なる影響を支那の改革上に及ぼせしや。恐らくは及ぼす所少なかりしならん。夫れ支那人は慧敏なる觀察眼を有する人民なり。爛々たる眼光を以て各國の行爲を觀察し、如何なる感を起すべきや。願ふに彼れ等と交通するとも、只幾分か改革の心を刺戟せらるゝのみ。他に得る所なしと爲すならん。著者の思考する所にては、支那は只外交のみによりて改革し得べきにあらす。

(丙)支那に要する所は、單に各國と交親するに在らず。交通上の藩籬を除きて自由貿易の法を實行せざるべからず。

貿易の文化を進むるに無量の功あることは、吾人の信して疑はざる所なり。然れど

も貿易を以て改革の機關と爲さんといふは、失當の說といはざるべからず。近世理財學の大家アダム・スミス(Adam Smith)は、人に下すに「貿易動物」(A trading Animal)なる定義を以てし、且つ曰く、犬は互に骨を交易せずと。仮りに今犬は互に骨を交易すると爲し、大都會に於ては、無数の犬相集まりて、盛んに其の交易を營むとするも、犬の性質上に如何なる影響を及ぼすべきや。ソモ上古に於ける貿易國の人民は、最良の人民にあらず、寧ろ最悪の人民なり。近世貿易國の人民は、之に異なれども、コハ貿易其のもの、影響によりて悪を善に變したるにあらず。他に原因ありて然るなり。或は曰く、貿易の目的は、基督教の目的と同じく世界的なりと。然れども又一方より言へば、貿易は虹と同じく、常に金壺の方に傾くにあらずや。

夫の亞非利加大陸を見よ、其の糖水酒(?)の交易といひ、奴隸の賣買といひ、皆所謂貿易にして、基督教國の行ふ所なり。然れども一として條理に叛き、正人の指彈すべきものに非ざるはなし。知るべし、貿易はそれ自身に於て改革の感化力を有せざるを。

(丁)支那は、西洋風の教育、西洋の科學に由りて改革すべし

支那の味方にして、能く其の事情に通ずるものは、その論する所前數者よりも、若實

にして適切なり。此の種の人々の意見に據れば、支那に必要あるは、西洋風の教育、西洋の科學及びミラーダウスの所謂「フンダメンタル・シキヤリゼーション」本^本的^的文^文明^明なり。然れども教育に由りて改革を遂げ得べしといふは、吾人の信する能はざる所なり。抑も支那人が教育ある國民と爲りてより、茲に數千年、我か祖先の猶森林の間に逡巡したりし時より既に文明國たり。而して教育によりて改革を行はんと企つることの熱心にして、誠實なりしは、天下恐らくは支那に及ぶものなかるべし。然れども教育は元來改革的性質を含むものにあらず。蓋し教育は自利的^{エゴイスタック}なり。その意識的^{コンセンサス}又は無意識的^{アンコンセンサス}綱領は「汝よりも寧ろ我れ」なり。支那は實に教育ある國にして、我か西洋の教育をすら蔑視する國なるに、其の教育によりて改革を行ふこと能はざ。我か西洋の教育を之に應用するども、目的を達する能はざるや必せり。

之に反して、支那人が科學を大に要することは疑ひの容るべきなし。夫れ支那は有力なる大國にして、今猶その貴力の隠伏せる莫大ならん。故に近世の科學を用ゐてその貴力を引き出さば、裨補する所蓋し小少ならざるべし。支那人漸く之を悟れり。未來に至らば、更に一層之を悟らん。然り而して科學は實に貴力を利用するに於て

裨益あるのみならず。支那の人心を風化するに於て亦大に裨益あるべし。然らばその手段は如何。凡そ科學の種類多しといへども、支那人を進歩せしむるの功に於て、化學の右に出るものあるべからず。隨て人民を改善し、面目を一新するの功亦大ならん。是れ此の種の論者の主張する所なり。然れども知らず、化學の普及は、果して欺偽暴擧の一新手段を發見せしむることとはなきや、否や。

『基本的文明』とは、西洋進歩の物質的結果の義なり。句中、蒸氣、電氣の發明に伴ふ百種の奇事を包含す。其の説に云く、眞に支那に必要なは、此の『基本的文明』なり。之を棄て、他に必要のものなし。例へば、鐵道は都府と都府とを聯絡し、汽船は内海を航し、郵便の制度は完全を極め、國立銀行や、銀貨や、電信機や、電話機や、恰かも交通の神經として設立すべし。その完成の期は、則ち支那が面目を一新し、福利を増大すべき期なりと。

願ふに張之洞の如きは、稍、此の意見を懐くが如し。彼れの鐵道敷設に關する意見書に云く、今若し鐵道を敷設せば、水夫の盜奪を行ふが如き水運上の危険を免かるゝを得べしと。然れども、基本的文明の増加は、果して德義的弊害を減すべきや。鐵道は

支那に基
據は由
りて之
を改
革すべ
からざ
らん

株主及び理事者の誠實を擔保するを得べきや。知らずや、彼のエリー（イリ）の事件を、傲然國と國との間の官道を盜奪したるに、あらずや。既に英米に於てかゝる弊害ありとすれば、支那に於ても亦弊害なきを保せず。

(戊)支那は基督教に由りて之を改革せざるべからず

支那を改革せんと思は、品行の本源に溯りて之を純潔ならしむるを要す。良心を實際上の帝王と爲し、彼の日本維新前の累代諸帝の如く、恰かも宮城内に幽閉せられしむることなきを要す。支那に必要なは、誠（フイニエンス）實なり。此の誠實を得んには、上帝を認め、人といへる概念を新にし、人と上帝との關係を知らざるべからず。支那に必要なは、各人の精神を一新し、家族及び社會の關係を一新する是れなり。果して然らば、支那凡百の必要は、之を唯一の最大必要の中に總括するを得べし。唯一の最大必要とは何ぞや。基督教是れなり。支那は實に基督教的文明に由りて完全に、且つ永久に改革するを得べきなり。

四海之内皆兄弟也
子夏 論語卷第十二 顔淵

科學上より人を研究するは、踏學の最も難きものなり

オーグステルネー、ホルムス
(O. W. Holmes)

凡人若くは事物に就て正だしき判断を形づく
らんと思はざれば、先づ其の善性を察して、然る後悪性を
論ずべし。吾人は、此の金言を確信するものなり。

カーライル
(Carlyle)

支那人氣質畢

九月
十日

四海之内皆兄弟也の語 論語卷第十二 顏淵

科學上より人を研究するは、諸學の最も難きものなり
オー、ダブリュー、ホルムズ
(O. W. Holmes)

凡人、若くは事物に就て正だしき判断を形づく
らんと思はゞ、先づ其の善性を察して、然る後悪性
を論ずべしと吾人は、此の金言を確信するものなり
カーライル
(Carlyle)

支那人氣質畢

(第二五五五原製本)

明治廿九年十二月九日印刷
明治廿九年十二月廿二日發行

定價金六拾錢



譯者 澁江保
發行者 大橋新太郎

印刷者 多田榮次

印刷所 愛善社

東京市日本橋區本町三丁目八番地
東京市神田區小川町登番地
東京市神田區小川町登番地

發兌元 博文館

東京市日本橋區本町三丁目

中西牛郎君著

支那文明史論

全壹册大判
洋裝美本
正價卅五錢
郵稅六錢

方今支那史の著作は汗牛充棟當ならず、然れども之を要するに、從來漢文の支那歴史に加ふるに地理、社會、宗教、工藝、文學上の事實を以てしたるものに過ぎず。若し夫れ支那四千年間文化の發達、國民の成立、人種の膨脹、保守の氣風、儒教の勢力、家族の結合、歴代の革命、富裕の進歩、宗教の特性、文學の異様、過去現在未來の現象を以て之を一大原因に歸して、一々之を説明し、其明晰なること東西古今獨り此一大著作あるのみ。此書一たび世に出で、より我が邦人が支那に對する疑團は、渙然として氷解するものあらん、此れ即ち本書の大本領にして、論法の精確、文字の雅健の如きは、餘事に屬するのみ。而して世の支那史を讀むものが之を一讀して心胸を拓き、參考に供するの必要あるは論を俟たず。苟も今日支那に對して任務を有する政治家、外交家、實業家、亦皆先を競ふて一讀せざる可からず。

◎中央新聞評 中西牛郎氏の著、文章誦すべく論旨また見るべし。
◎都新聞評 支那人の拜自然教なる事を根據として、支那文明の本質を論斷せるものにして、著者の新發明として感すべし議論少ならず。

中川忠英君輯

(密畫數百個人)

清俗紀聞

全六册木版和裝
正價金九拾錢
郵稅十四錢

飛騨守中川忠英は徳川政府中屈指の英物たり、その長崎奉行に任せられて彼地に到るや力めて清國の事情を詳悉せんと欲し、公務の暇或は居留の清人に質し、或は彼邦の記録に徴し、乃ち圖し乃ち録し、心力の及ぶ所を盡して、以て此書を編成せり、故に一たび之を繕けば四百餘州の風土文物習俗事宜は瞭然として之を掌に指すが如し、彼を知り己を知るは今日國民の急務たるのみならず、東洋多事の時、志士の一讀を要する良書なり。

支那漫遊者安東不二雄君著

(石版密畫挿入)

支那漫遊實記

全壹册洋裝袖珍
正價金拾錢
郵稅四錢

其著者が健脚支那大洲を漫遊せし實見録にして其風土、人情地勢、習俗を網羅せしもの簡明に劃切、渠等豚尾漢が事情悉く此一冊にあり。

栗田寛先生題辭

文科大學 卒業生 熊田子之四郎君著

支那近世史

全壹册 洋裝 紙數三百頁 廉價 金拾錢

●緒論 ●清廷ノ起原 ●太祖及ヒ世祖 ●聖世ノ治蹟 ●世宗及ヒ高祖ノ外征 ●嘉慶ノ亂及ヒ回部ノ騷擾 ●鴉片ノ戰爭 ●長髮賊ノ亂 ●英、佛同盟軍ト、戰爭 ●大日本ト、關係 ●清佛戰爭 ●天津條約 ●國政 ●政府組織 ●賦稅 ●附、度量、衡。 ●内治 ●外交 ●刑法 ●學制 ●兵備 通信 國民族體 ●學術 ●宗教 ●風俗 ●殖産、通信 ●地誌

熊田子之四郎君、多年清國の近世史に心を砕き、其の一治一亂一盛一衰の跡業、既に胸中に存じ、更に著實にして洗暢、精密にして明白なる筆力を振ひ、本書即ち支那近世史を著す。秩序一貫、清國以來の大小戰爭、政治、風俗、習慣、宗教、學術及び地誌等と述べ、殊に現今の軍制等と詳論したるものなり。故に清國の沿革を詳知せんとせば、此書を除きて他に明かにしたるものなし、請ふ此書に依り、東洋前途の爲め一大新策を講せられんことを望む。

●谷口君著

支那小歴史

全壹册 正價 金拾二錢 郵稅 一錢五厘

三島中洲先生校閱 山名善讓先生訓點

資治通鑑

全二百九合七十册

和裝美本上等日本紙印刷鮮明 正價金拾五圓○通運料十五錢

特別廉價拾壹圓

温公の資治通鑑、周の威烈王に始まり、兩漢六朝、唐を経て五代に至り、後周の顯宗に終るまで、歲を經る一千三百餘年、冊を重ねる二百九十四卷、治亂興亡隆替盛衰の跡、炳然として火を見るが如し。左國史漢の後、實に稷難と良史なり、校正綿密、印刷鮮明、從來行はるもの、比に非ず、幸に劉覽の榮を賜へ。

大槻東陽先生校訂

春秋左氏傳校本

全十五册大判、正價金壹圓八十錢通運料廿五錢、古の良史をいふもの必ず左國史漢を稱す先秦の名文を擧るもの亦必ず先づ指を左氏に屬す、而して此書は大槻先生が諸種の善本を集めて校訂し且標註せられたるものなれば左氏の眞面目を得たること天下此書の右に出づるものなし。

石川鴻寶君校 註點 全八册 正價壹圓廿錢 郵稅拾八錢

註點 全六册 正價金壹圓 郵稅拾貳錢

註點 全二册 正價貳圓五十錢 通運料貳拾錢

註點 全七册 正價八拾五錢 郵稅貳拾錢

紫山川崎三郎君著

新撰支那國史

全參册洋裝
金七拾五錢
郵稅廿四錢

上三皇五帝の太古より、下明清の近代に至るまで、治亂興廢の跡、盛衰變遷の状、英雄の起仆、文物の隆替、細大洩らさず、殊に其文章に至りては、紫山君特有の雄筆にして、字々悲壯、句々慷慨、一掃し來れば實に手解くに忍びざるものあり、其評論に至りては、射天貫地の炯眼を以て大局を遠視し、又皮肉を穿つ、一閃し去れば、車洋の形勢瞭として目に在り、今や天下の風潮は滔々として太平洋裏に向て吹き來る、政治家たるもの、文學家たる者、皆な東洋の形勢を詳かにせざる可らず、此時に當て天下懷憂の士何ぞ速に一本を購はざる。

增田岳陽先生校 藤田言梁先生編

中等支那史

全七册木版
和裝美本
正價七拾五錢
郵稅十二錢

十八史略は良書なれども元以下を缺けり、此書は太古より清の光緒五年(明治十二年)までを、編年体にて記せり。文章は平易なる漢文を用ひて條簡宜きに適ひ、支那歴史の巨擘なり。

柏軒松井廣吉君著

英鴉片戰史

全壹册洋裝
二拾八拾餘頁
正價金拾八錢
郵稅六錢

世界の一大國たる清國が文明國の軍に攻撃せらるゝと四回、其の初めは實に英國との阿片戰爭にして、第四回は即ち日本との戦ひ是なり。本書は、清國の固陋尊大なるを、露國が巧みに支那を籠絡せんと、英國に東洋に版圖を開拓せしより、勢力の撞着竟に一轉して鴉片戰爭となりし事情を發端とし英國の遠征出師、作戰、戰闘、國論を始り、清國の防禦、權謀、外交の奇變等詳密明確と極む英清露の關係、局面の變動、勢力の消長、兵勢の強弱等一目にして明白なるべく、讀者獨り戰闘の壯觀に心目を快にするのみならず、又實に東方問題の真相と知解するの益あるべし。

柏軒松井廣吉君著

英佛征清戰史

全壹册洋裝
紙數五百頁
正價金拾八錢
郵稅八錢

英佛聯合軍が支那を征伐し、北京城下の盟をなさしめし顛末を詳叙し、兩軍の遠征隊組織、作戰方略等を掲げたる、完全なる戰史にして、且つ構難の原由、外交の掛引、輿論の冷熱等をも細記しあり、兵士以外には、殆んど了解しがたきが如きものにあらず、志士今日之を讀まば、特に限りなき妙味を感ずべし。

衆議院議員尾崎行雄君著

支那處分案

全冊洋裝
特別金八錢
郵税六錢

支那の將來は如何なるべきか、能く其の獨立を全うするを得べきか、若し獨立を保ち得ずんば我が帝國の之に對する如何にして可なるか、早に帝國百年の大計を論ずるのみならず、漢洋百年の大計として、之が處分を如何にするべきか、是れ博識居士が虹霓の如き萬丈の大氣を吐き、諸腹の理論を本書に依りて露出したるものなり、以て日本帝國強まるべく、以て東洋の治安維持るべく、又以て世界の治安維持して見るべし。

荒尾 清君著

對清意見

全冊洋裝
特別金八錢
郵税六錢

方今世界第一の強帝國、其の面積、其の人口、又東西兩半球上に冠絶する大國たる支那の將來は如何、征清戦起りて以來我が此の老大帝國に對する地位殊に接近し、之が陸軍海軍の爲めに盛る所の利害は殊に痛切を加へたり、之を警覺し、快撥して東洋百年の平和を謀らば、帝國の威權を更に及び利益を増進する方法は如何、此處國君の清通通たるは世間既に公認あり、本書は君が多年の實地に據りて海陸の通商を論究したるものに係る、世の政治家實業家皆必ず一讀せざる可からず。

柏軒松井廣吉君著

支那三國時代

全冊洋裝
正價拾二錢
郵税六錢

三國志、水滸傳、西遊記は支那の三大奇書なり、但だ三國志は稗史ゆへ眞偽相半し、讀んで面白きも事に益なく、又當時の大勢を知るに足らず、此の「三國時代」は其智勇辯力を描すこと遠く三國志に譲らず、而して其の縱橫大勢を叙して英雄傑士の離合興敗を記せると殆んど屏を燃して物を照すが如く一々精確の事實なれば、支那歴史中の最も壯觀大觀たるの歴史として、極めて趣味あり利益あるものなるべし、幸ひに愛讀し賜へ。

新撰支那全圖

全一枚大判
特別金四錢
郵税二錢

日清戰其前を給り兩國の平和克復すを望み我國民は今後益々強國が地勢を知ると要す本館夙に此に意あり精確鮮明なる銅版地圖を製して敢て諸君の彩しき活潑なまつ夫れ唯本館の幸榮のみならず。

衆議院議員尾崎行雄君著

支那處分案

全洋册洋裝
特別金八錢
郵税六錢

支那の將來は如何なるべきか、能く其の端々を全たくするを得べきか、若し獨立を保ち得ずんば我が帝國の之に對する如何にして可なるか、單に帝國百年の大計を論ずるのみならず、百年の大計として、之が處分を如何にするべきか、是れ得志居士が紅雲の如き萬丈の大氣を吐き、滿腹の理論を本書に依りて露出したるものなり、以て日本帝國の興隆を以て東洋の治安策たるべく、又以て世界の治安策として見るべし。

荒尾 清君著

對清意見

全洋册洋裝
特別金八錢
郵税六錢

方今世界第一の強帝國、其の面積、其の人口、又東西兩半球上に威絶する大國たる支那の將來は如何、征伐戰起りて以來我が此の老大帝國に對する地位は接近し、之が經濟力隆の爲めに感ずる所の利害は殊に痛切を加へたり、之を警覺し、扶掖して東洋百年の平和を保ち、帝國の威名を益々増進する方法は如何、荒尾清君の清國通たるは世間既に公評あり、本書は其が多年の實験に徴して滿腹の理論を論究したるものに俾る、世の政治家實業家皆必ず一讀せざる可からず。

柏軒松井廣吉君著

支那三國時代

全洋册洋裝
正價拾二錢
郵税六錢

三國志、水滸傳、西遊記は支那の三大奇書なり、但だ三國志は神史ゆへ眞偽相半し、讀んで面白きも事に益なく、又當時の大勢を知るに足らず、此の「三國時代」は其智勇辨力を描すこと遠く三國志に譲らず、而して其の縱橫大勢を叙して英雄傑士の離合興敗を記せると殆んど屏を燃して物を照すが如く一々精確の事實なれば、支那歴史中の最も壯觀大觀たるの歴史として、極めて趣味あり利益あるものなるべし、幸ひに愛讀し賜へ。

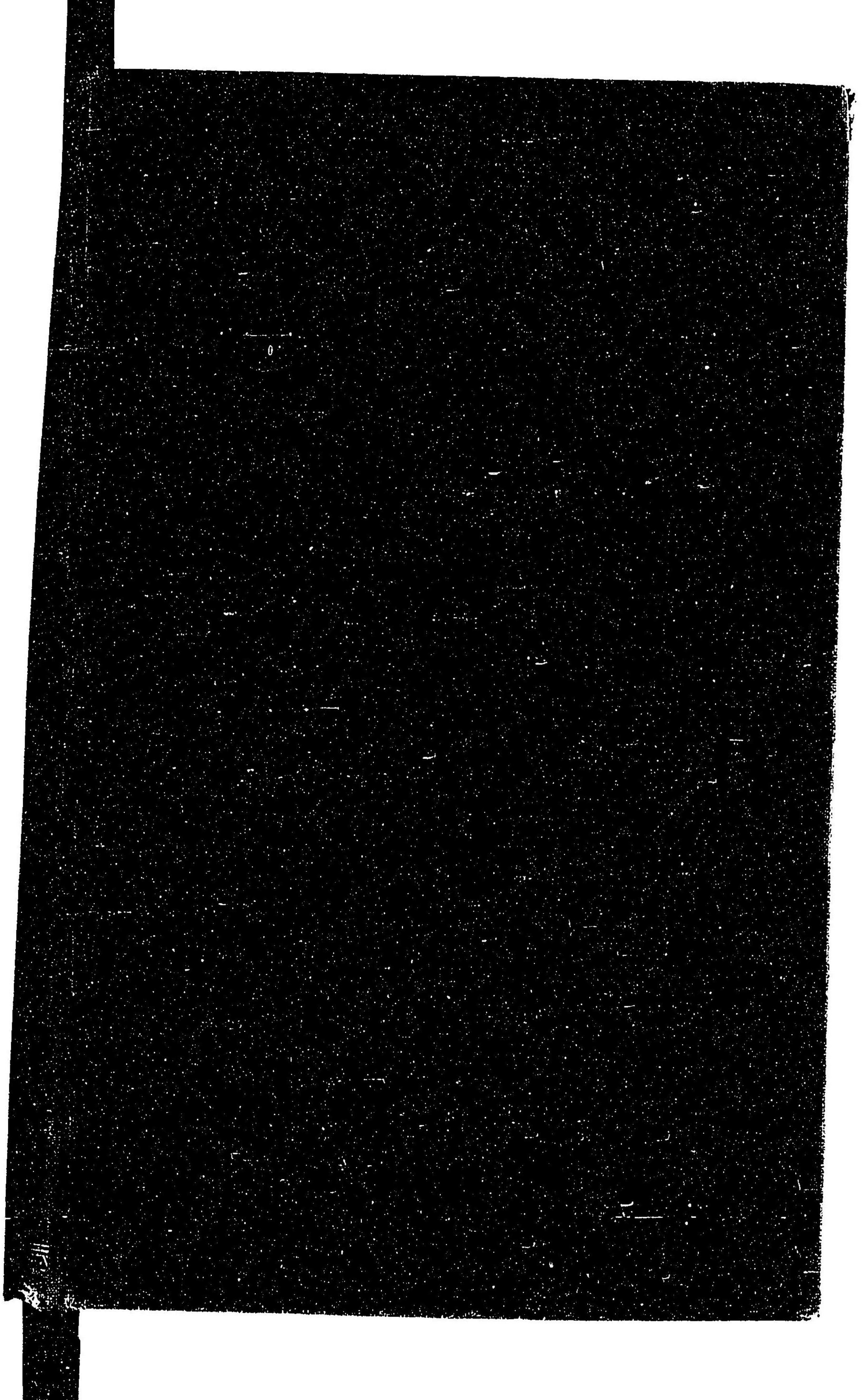
新撰支那全圖

全一枚大判
特別金四錢
郵税二錢

日清戰其前を結ひ兩國の平和克復す。雖も我國民は今後益々強盛が地を形勢を知るを要す本邦風土に此に意あり精確詳明なる編版を製して敢て諸君の影しき流傳をまつ夫れ唯本邦の榮榮のみならずんや。

74

22



026510-000-8

74-22

支那人氣質

アーサー・エチ・スミス/著

M29

ADD-0173

